

RANGERS PROJECT. 2013

NPO法人 自然環境復元協会
レンジャーズプロジェクト
平成 25 年度 成果報告書

平成 25 年度 レンジャーズプロジェクト 成果報告書 目次

1. プロローグ	1
2. レンジャーズプロジェクトのコンセプト	5
◆レンジャーズプロジェクトのミッション	5
◆レンジャーズプロジェクトのシステム	7
◆フィールド広域化のシステム構築	8
◆レンジャーズプロジェクトのヒストリー	9
◆2013 年度 ミッション実施一覧	11
◆レンジャーズ隊員の分析	13
3. 2013 年度フィールド紹介	15
◆レンジャーズプロジェクト フィールド MAP	15
◆トーキョーレンジャーズ	
・宇津木台緑地（八王子市）	16
・サンシティ内緑地（板橋区）	17
・杉並区立柏の宮公園（杉並区）	18
・墨田区立隅田公園（墨田区）	19
・夢の島公園・夢の島熱帯植物館（江東区）	20
◆かまくらレンジャーズ	
・鎌倉市立鎌倉中央公園（鎌倉市）	21
◆埼玉レンジャーズ	
・鶴ヶ島市高倉地区（鶴ヶ島市）	22
◆よこはま里山レンジャーズ（ヨコハマレンジャーズ）	
・入船公園（鶴見区）	23
・恩田の谷戸（青葉区）	24
・カーリットの森（保土ヶ谷区）	25
・川井緑地（旭区）	26
・桜ヶ丘緑地（保土ヶ谷区）	27
・瀬上市民の森（栄区）	28
・な～に谷っ戸ん田（青葉区）	29
・新治市民の森・谷戸田（緑区）	30
4. 企業・学校との協働事例の紹介	31
◆NEC ソフト株式会社 CSR 推進部	31
◆株式会社資生堂研究推進部	32
◆株式会社協振技研・特定非営利活動法人 NICE	33
◆専門学校東京テクニカルカレッジ	34

5. 講習会の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
◆こんな時どうする？救急のQ！ファーストエイド講習会・・・・・・・・	35
◆生物多様性を確保する里山づくり講習（基礎編）・・・・・・・・	36
6. 参加者の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
◆レンジャーズ隊員 宇田川祐美恵様・・・・・・・・	37
◆レンジャーズ隊員 山下理恵様・・・・・・・・	37
7. 有識者の声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
◆恵泉女学園大学人間社会学部 准教授 松村正治氏・・・・・・・・	38
8. インターンシップ生の声・・・・・・・・・・・・・・・・	39
◆長期インターンシップ生 金子雅佑さん・・・・・・・・	39
◆長期インターンシップ生 和田昴紘さん・・・・・・・・	40
◆短期インターンシップ生 玉川大学農学部の学生の皆さん・・・・・・・・	41
9. 広報活動・メディア掲載・・・・・・・・・・・・・・・・	42
◆広報・講演活動レポート・・・・・・・・	42
◆メディア掲載・出演情報・・・・・・・・	43
◆広報ツールの紹介・・・・・・・・	45
10. 効果の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
◆緑地保全活動団体への定着に関する一般参加者の意識について（千葉大学大学院 高瀬唯）	47
◆サンシティ内緑地「緑の都市賞」受賞について・・・・・・・・	50
11. 実施団体より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
◆自然環境復元協会 レンジャーズプロジェクト 担当理事 立川周二・・・・・・・・	51
◆自然環境復元協会 レンジャーズプロジェクト ボランティアリーダー 佐々木堯之・・・・・・・・	52
◆自然環境復元協会 レンジャーズプロジェクト コーディネーター 伊藤博隆・・・・・・・・	53
12. あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54

『この森を守れなくなるから、 木を全部きって 芝生にしようと思っているんだ・・・』

ある団体の代表がもらしたこんな一言から、レンジャーズは始まりました。

この団体は、20年もの間、地域の自然を守るために

活動を毎週のように続けてきました。

そして、この場所は地域にとって欠かせない大切な自然となりました。

しかし、活動メンバーの高齢化に伴い参加者が減り、

活動の継続が困難となってきてしまったのです。



『この森を守るため、 みんなでお手伝いにいこう！』

この活動をお手伝いさせて頂いたことをきっかけに、
東京近郊の様々なフィールドに出向いてお手伝いする企画
「トーキョーレンジャーズ」を立ち上げました。
東京などの都市の中にも多くの自然があり、
都市型の里山として市民の生活に密着しています。
それらの自然環境を保全するため、
たくさんの環境再生医や環境活動団体が活動を行っていますが、
多くのフィールドで人員不足などの理由により活動が困難な状況です。

『身近な自然を守りたい』

そして、2012年、先人が守り育ててくれた自然を
次世代に引き継ぐため、
また、より広域に活動を展開していくためのボランティアシステム、
「レンジャーズプロジェクト」となりました。

『隊員、出動願います！』

トーキョーレンジャーズが始まってから、3年の月日経ちます。

最初は東京都にある団地の森からスタート。

それから、町なかの公園のお手伝いにも行くようになりました。

ちょっとずつ足をのばして、

神奈川県や埼玉県のフィールドへも行くようになりました。



お手伝いに行く回数が最初の1年は19回。

3年という月日を経て、150回以上という回数を重ねています。

はじめての活動は、隊員3人とスタッフ2人だけ。

隊員数も最初の1年は100人。

次の年には400人。そして今では1000人を超えました。

いっぱい仲間がふえて、いっぱいお手伝いもして。

でも、身近な自然の保全の活動には終わりはありません。

これからも、レンジャーズプロジェクトは身近な自然を守る活動を
頑張ります。



『目指すは
住民総レンジャーズ！』

◆ レンジャーズプロジェクトのミッション

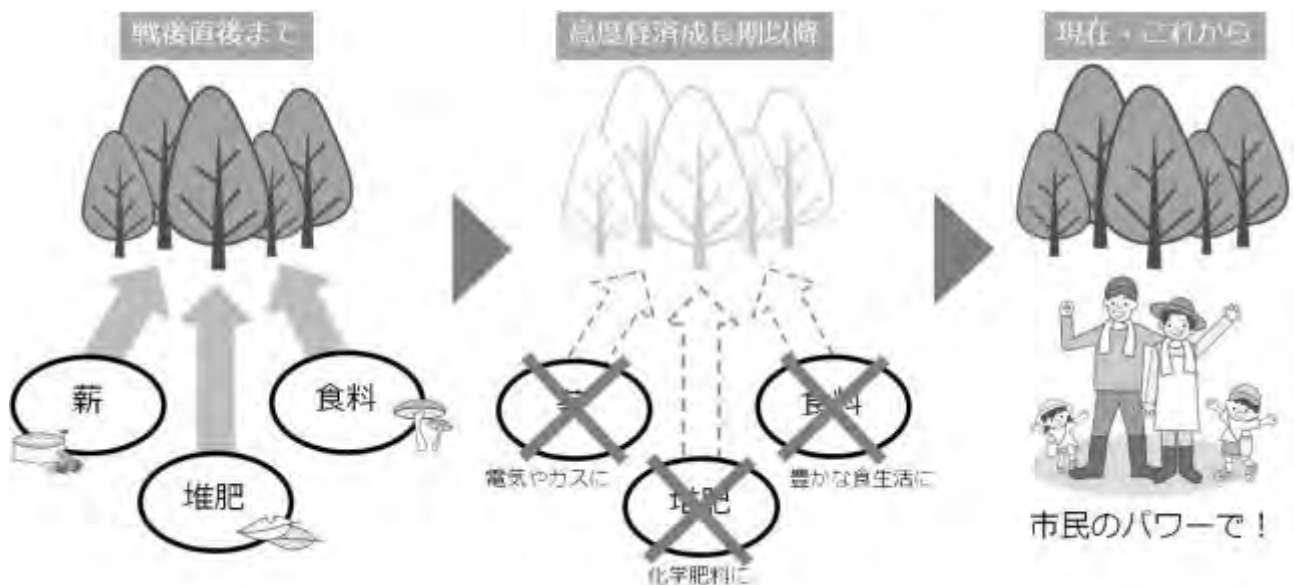
レンジャーズプロジェクトは、ボランティアを必要としている身近な自然の保全団体と、緑のボランティア希望者を結び付けるのが目的です。



特定非営利活動促進法が施行され、多くの団体がNPO法人化し、今や環境NPOの登録団体数は10,000を超えています。しかし、地域活動団体の構成メンバーの高齢化などにより活動継続困難な団体も多く、また、ボランティアの参加者は年々増えているものの、環境NPOへの参加は十分とは言えません。そのような状況の中、地域に密着した環境活動団体への人材不足を解消することを目的に、若手ボランティア人材派遣活動「トーキョーレンジャーズ」がスタートしました。「トーキョーレンジャーズ」は、潜在的ニーズであった「関心はあるが活動できない人材」を行動へ結びつける活動として評価をいただくまでになりました。そして、活動支援に至るまでの手法をノウハウとして構築し、広域での活動につなげることを目的とした「レンジャーズプロジェクト」へと発展しました。将来的には、地域の環境活動団体が新たな担い手を育成・確保し、緩やかな世代交代を行うことを目指します。

そもそも、なぜ、自然や里山が現在のような状況になったのでしょうか。

昔、人々の暮らしは里山に支えられてきました。人々は里山に生えている木を炭や薪として利用してきました。また、どんぐりやキノコ、栗は食糧となり、落ち葉は堆肥として重宝されました。日々の暮らしを営むために、人々は里山の資源を利用しつつも守りながら、緑豊かな森が維持されてきたのです。しかし、時が経つにつれて里山は資源として利用されなくなっていくます。例えば、家庭用燃料が薪や炭から、ガスや電気などへと変化していきました。また、化学肥料が普及すると手間のかかる落ち葉堆肥は作られなくなり、雑木林が経済性を失うとともに、里山に目を向けなくなっていきました。



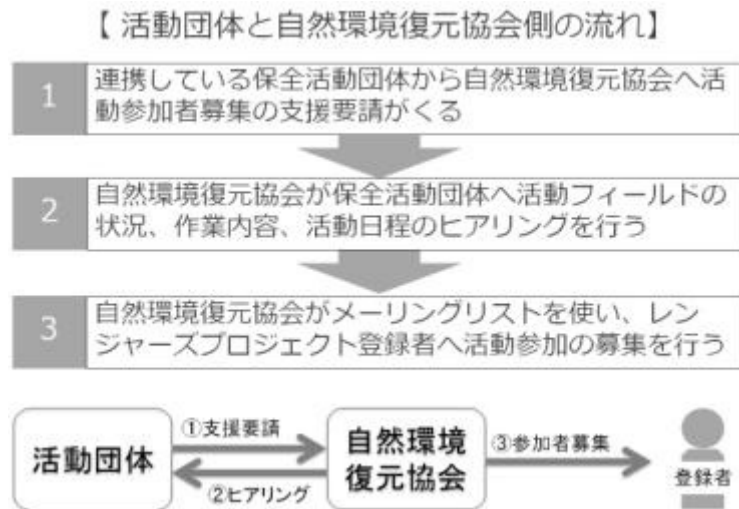
利用されなくなった里山はどうなってしまったのでしょうか。里山の多くは住宅地になってしまいました。高度経済成長時代に都市に流入した労働力に住居を供給するためだったそうです。また、残った里山も管理がなされず草木が生い茂り、人が入れる環境ではなくなっていました。人が入らなくなった里山は、ゴミが投棄されるなど、ますます人が寄り付けない場所になっていきました。

里山が荒れる一方で、かつての環境を取り戻そうと立ち上がったのが、それぞれの地域で活躍されている環境活動団体です。市民のパワーで、日本全国の多くの里山や自然が再生されてきました。現在日本では世界に向けて、「SATOYAMA イニシアティブ」を発信しています。再び、里山は注目され始めています。しかし、多くの活動団体は活動を開始して長い年月が経ち、活動メンバーの高齢化により里山の維持が危機に面しています。

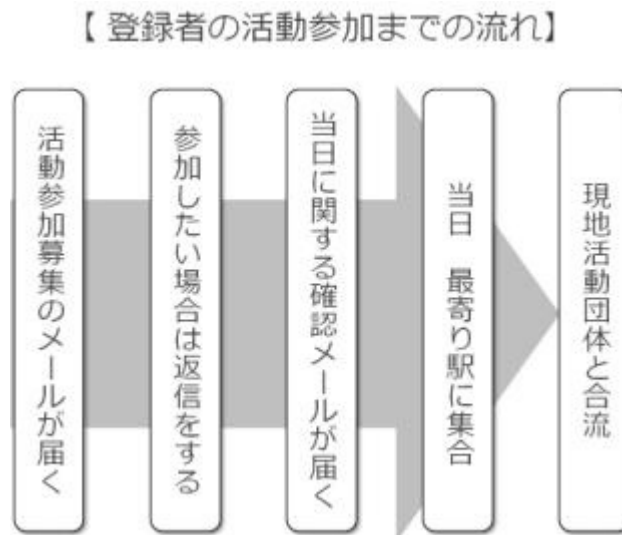
緑豊かな森ができるには50年以上かかります。さらに、その森で色々な生きものたちが豊か暮らすにはどれくらいかかるのでしょうか。一度失った緑を取り戻すことは簡単ではありません。私たち市民が自然豊かな里山を守るためには、若い人を活動に巻き込むことが必要です。

様々な活動団体とボランティアをしたい人をつなぎ、緑豊かな里山や自然環境を次世代へと引き継ぐお手伝いをする。それがレンジャーズプロジェクトの目標です。

◆ レンジャーズプロジェクトのシステム



一般公募により申し込まれた団体の中から、緊急性が高いと判断した団体に、訪問によるヒアリングを行います。活動内容や安全管理の意識などを伺い、「信頼がおける活動団体である」と判断した中から、連携する活動団体（受入団体）を選定します。その後、受入団体から自然環境復元協会事務局へ支援要請が入り、具体的な活動日程や活動内容の調整を行います。



調整をして活動日程が決定すると、自然環境復元協会事務局からレンジャーズプロジェクト登録者へメールで活動のお知らせが送られます。その活動に参加したいと思ったら、登録者はメールで返事をします。参加者には、当日までに事務局から当日の詳細に関するメールが送られます。参加者は、当日、活動場所の最寄り駅に集合します。そこから、事務局スタッフがフィールドまで参加者を案内し、現地で参加者と現地活動団体が合流します。レンジャーズプロジェクトでは、ただ活動参加者を募集するだけでなく、活動日当日における参加者と活動団体の間のコミュニケーションもお手伝いします。

◆ フィールド広域化のシステム構築

レンジャーズプロジェクトを実施する中で、「より様々な地域で実施して欲しい」という声も多く、より広範に実施するように展開しました。しかし、自然環境復元協会事務局だけではマンパワーに限りがあるため、地域の実情をよく知る中間支援組織と協働することで広域にて展開することができました。

【横浜】NPO 法人よこはま里山研究所（NORA）によるコーディネートにより実施

昨年度から開始した「よこはま里山レンジャーズ」は、横浜の緑の中間支援として活動してきたNPO 法人よこはま里山研究所（NORA）との協働事業として実施しています。横浜で広くネットワークを持つ、NORA の強みと、若い世代を中心に緑のボランティアを希望する人とのネットワークを持つ、レンジャーズプロジェクトの強みが融合したものです。昨年度（平成 24 年度）は、NORA が横浜市の公募事業の資金支援を受け実施し、レンジャーズプロジェクトと協働で実施しています。横浜市内で、地域の緑地保全活動を実施する団体にレンジャーズを派遣しています。奥深い里山あり、駅のすぐ近くでの活動あり、公園のピクトープありと、横浜の地域資源を生かしたバラエティに富んだ活動が魅力です。



【埼玉】鶴ヶ島市農業交流センター（鶴ヶ島市役所）によるコーディネートにより実施

埼玉レンジャーズは、これまで、鶴ヶ島市内の「高倉ふるさとづくりの会」、「里山サポートクラブ」、「つるがしま有機の会」の3団体をお手伝いしています。地元団体の活動メニュー調整などを、鶴ヶ島市役所農業交流センターのコーディネートにより実施しています。

これにより、より細かいプログラム設定が可能となり、また農業交流センターの行事と連動するなど、様々な相乗効果が生まれています。また、環境活動は高倉地区内の川や屋敷林で行い、活動後の懇親会は農業交流センターの芝生広場で楽しく焼き芋をするというように、環境活動とレクリエーションの両立の実現が可能となりました。



※広域化をするにあたり、地球環境基金の助成を受けました。

◆ レンジャーズプロジェクトのヒストリー

- 2010年 5月 トーキョーレンジャーズとして、隊員の応募を開始
5月30日 隊員3名+スタッフ2名で板橋区サンシティにて活動を行う
以後、月1回ペースで活動を開始
- 6月 夢の島公園がフィールドに加わる
- 9月 神奈川 野島 塩生湿地の作業に参加
- 10月 西伊豆 松崎町棚田の保全活動へ参加 初遠征となる 8人参加
- 11月 NECソフトとの協働にて 海の森植樹活動（江東区）
杉並区 柏の宮公園がフィールドに加わる
- 12月 年末までに87名の隊員登録あり
- 2011年 1月 隊員登録者数が急増したため、作業が追い付かず、登録受付を中断する
- 2月 受付をWEB上で行えるようなシステムとして、登録再開した
柏の宮公園での活動が、東京の緑を守るプロジェクト助成に採択される
- 3月 登録者数100名を突破
東京都下水道局森ヶ崎水再生センターにてリトルターンプロジェクトの活動に参加予定だったが、震災の影響で中止となる
※震災の影響により、しばらく活動を休止
- 4月 トーキョーレンジャーズの広域モデル化のため地球環境基金の助成を受け、「レンジャーズプロジェクト」となる
- 5月 活動再開この頃より週1回ペースで活動を行うようになる
- 7月 新木場駅前ハーブガーデンがフィールドに加わる
- 8月 東京都の緑を守る将来会議で事例報告を行う
- 9月 隅田公園がフィールドに加わる
- 10月 受入団体の一般公募を行う
鎌倉中央公園がフィールドに加わる
- 12月 1年間の登録者数165名 トータル252名の隊員



ある日は
種をまき、



ときには
草を抜く。

- 2012 年 3 月 葛西臨海公園がフィールドに加わる
- 6 月 埼玉レンジャーズを鶴ヶ島市農業交流センターと協働で開始
- 8 月 会員管理にクラウド・システムを導入し、業務の効率化・信頼性の向上を図る
- 9 月 レンジャーズプロジェクトのホームページをリニューアル
よこはま里山レンジャーズを、NPO 法人よこはま里山研究所（NORA）と協働で
6 フィールドで開始
- 10 月 株式会社資生堂技術アライアンス推進部との協働にて下草刈り、間伐作業（横浜市カーリットの森）
- 2013 年 3 月 NPO 法人よこはま里山研究所（NORA）主催の活動報告会「里山再生の楽しさを若者に伝えるために～よこはま里山レンジャーズの挑戦」で、共催としてレンジャーズプロジェクトの活動を報告
- 5 月 ゴールデンウィークに緑のボランティア強化週間ということで「グリーンウィーク」を実施
- 7 月 レンジャーズプロジェクト初の隊員向け講習会を実施。「レンジャーズ 999 人突破記念！こんな時どうする？救急 Q ファーストエイド講習会」と題し、安全管理講習会を渋谷区地球環境パートナーシッププラザで開催
新規派遣団体をレンジャーズプロジェクトのホームページで募集。新規派遣団体として、4 団体を選定
隊員登録数が 1000 人を突破
- 11 月 NPO 法人 NICE と株式会社協振技建との協働で、埼玉県鶴ヶ島市高倉地区にてミッションを実施
リーダーの数を増やすために、リーダー募集を実施
- 2014 年 2 月 たび重なる降雪の影響で予定されていたミッションが全て中止となる
- 3 月 「生物多様性を確保する里山づくり講習会」を横浜市カーリットの森で実施

To be continued...



よばれりや
竹を刈り...

レンジャーズプロジェクトの
活躍はまだまだ続く！



◆ 2013 年度ミッション実績一覧（2013 年 3 月～2014 年 2 月）

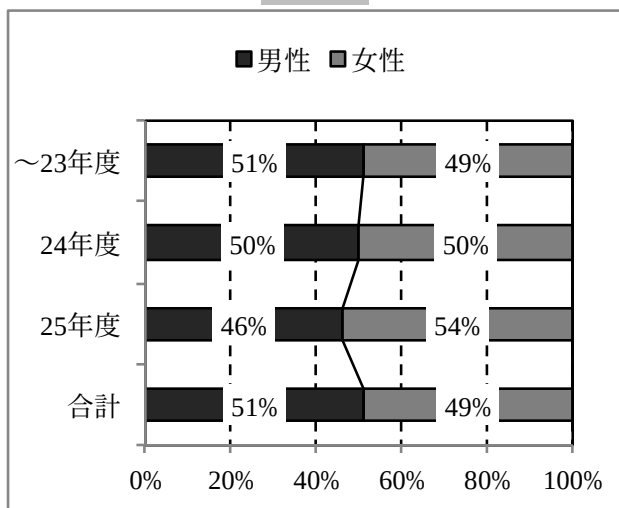
No.	状況	活動日	参加人数	支部	フィールド	作業内容
1	完了	2013/3/23	8	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	日本庭園内の粗朶の補修
2	完了	2013/3/24	17	トーキョー	森ヶ崎水処理センター	コアジサシが安心して子育てをできるようにする環境整備
3	完了	2013/3/30	10	トーキョー	隅田公園	桜の花芽調査
4	完了	2013/4/27	9	トーキョー	夢の島公園	チューリップ花壇の手入れ、がら拾い
5	完了	2013/4/27	6	トーキョー	サンシティ	除草
6	完了	2013/4/28	15	かまくら	鎌倉中央公園	田うない（田んぼの土を耕す作業）、畑作業
7	完了	2013/5/3	20	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	選択除草、実生雑木のポット上げ
8	完了	2013/5/4	14	よこはま里山	川井緑地	麦畑の草刈り、野菜の種まき
9	完了	2013/5/11	9	トーキョー	隅田公園	除草、ひまわりの種まき
10	完了	2013/5/18	8	よこはま里山	新治市民の森・谷戸田	谷戸田の土手の草刈り
11	完了	2013/5/25	17	トーキョー	サンシティ	バードサンクチュアリの整備
12	完了	2013/6/8	5	トーキョー	夢の島公園	自然薯の植え付けイベントをお手伝い
13	完了	2013/6/8	10	かまくら	鎌倉中央公園	田植え、しろかき
14	完了	2013/6/9	9	よこはま里山	川井緑地	麦畑の麦の刈り取り
15	中止	2013/6/16	-	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	水生生物池の周辺の植物の手入れ
16	完了	2013/6/22	31	トーキョー	N E Cチャリティーハーブガーデン	ラベンダーを華麗に収穫
17	完了	2013/6/22	8	トーキョー	サンシティ	下草刈り
18	完了	2013/6/30	18	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	田んぼの防鳥ネットの片付け、ため池などのアメリカザリガニ罟チェックなど
19	完了	2013/7/7	11	よこはま里山	入船公園	ビオトープ池整備
20	完了	2013/7/13	11	トーキョー	隅田公園	生育調査、胴ぶき切除、落ち葉堆肥の切り返し
21	完了	2013/7/14	7	かまくら	鎌倉中央公園	田の草取り、苗床の片づけ
22	完了	2013/7/27	10	よこはま里山	新治市民の森・谷戸田	谷戸田の土手の草刈り
23	完了	2013/7/28	15	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	選択除草
24	完了	2013/8/17	5	よこはま里山	な～に谷っ戸ん田	現地調査 田んぼの防鳥ネット張りなど
25	完了	2013/9/1	14	かまくら	鎌倉中央公園	畑仕事のお手伝い（ダイコン・カブの種まき）
26	完了	2013/9/7	20	トーキョー	サンシティ	スタジイのお手入れ
27	完了	2013/9/22	7	よこはま里山	瀬上市民の森	セイタカワダチソウ・アズマネザサの除草
28	完了	2013/9/28	11	よこはま里山	な～に谷っ戸ん田	稲刈り、はざかけ
29	完了	2013/9/29	10	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	選択除草作業
30	中止	2013/10/5	-	よこはま里山	入船公園	ビオトープ整備
31	完了	2013/10/12	16	トーキョー	隅田公園	花壇でのコスモスの刈取・耕運・播種 石積み裏（道路わき）の耕運・播種
32	完了	2013/10/14	8	かまくら	鎌倉中央公園	稲刈り

No.	状況	活動日	参加人数	支部	フィールド	作業内容
33	完了	2013/10/17	21	よこはま里山	カーリットの森	下草刈り、間伐
34	完了	2013/10/19	6	トーキョー	木場公園	ブース運営の手伝い、イベント補助、ラベンダー製品の紹介などの接客
35	完了	2013/10/20	8	トーキョー	木場公園	ブース運営の手伝い、イベント補助、ラベンダー製品の紹介などの接客
36	中止	2013/10/20	-	トーキョー	サンシティ	斜面林の手入れ
37	中止	2013/10/26	-	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	脱穀&粃摺り
38	中止	2013/10/27	-	トーキョー	海の森	東京臨海部：海の森での植樹
39	完了	2013/11/2	46	埼玉	飯盛川	アヤメの移植作業
40	完了	2013/11/2	13	よこはま里山	入船公園	ビオトープ整備
41	完了	2013/11/10	7	かまくら	鎌倉中央公園	粃干し、粃摺り、藁切り、サツマイモの洞入れ
42	完了	2013/11/14	15	トーキョー	サンシティ	鳥の巣箱の設置
43	完了	2013/11/16	6	よこはま里山	瀬上市民の森	草原の草刈り
44	完了	2013/11/17	8	トーキョー	海の森	東京臨海部：海の森での植樹
45	完了	2013/11/21	14	トーキョー	夢の島公園	枯れ枝の回収作業
46	完了	2013/11/24	9	よこはま里山	恩田の谷戸	お米の脱穀・選別作業
47	完了	2013/11/28	14	トーキョー	サンシティ	鳥の巣箱設置、花壇の花植え
48	完了	2013/12/1	19	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	落ち葉掻き・選択除草・草刈り
49	完了	2013/12/5	13	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	腐葉土づくり・草刈り
50	中止	2013/12/7	-	よこはま里山	川井緑地	林床整理、風雨倒木や間伐材の森からの搬出
51	完了	2013/12/8	5	かまくら	鎌倉中央公園	畑の土づくり
52	完了	2013/12/12	13	トーキョー	サンシティ	土留めの設置
53	完了	2013/12/14	4	トーキョー	夢の島公園	じねんじょ収穫イベント補助
54	完了	2013/12/15	12	埼玉	飯盛川	市民の森で落ち葉掃き
55	完了	2013/12/22	14	トーキョー	宇津木台緑地	竹林の整備
56	完了	2013/1/16	12	トーキョー	夢の島公園	花壇へのチューリップの植え付け
57	完了	2014/1/19	14	かまくら	鎌倉中央公園	堆肥切り返し、粃殻くん炭、畑の整備など
58	完了	2014/1/23	14	トーキョー	サンシティ	樹木の植樹のための下準備
59	完了	2014/1/26	15	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	落ち葉掻き・草刈り作業
60	完了	2014/1/30	9	トーキョー	杉並区立柏の宮公園	腐葉土作り、保護柵用柵作り
61	完了	2014/2/6	6	トーキョー	サンシティ	樹木の植樹
62	中止	2014/2/9	-	よこはま里山	川井緑地	林床整理、風雨倒木や間伐材の森からの搬出
63	中止	2014/2/15	-	よこはま里山	桜ヶ丘緑地	水田の基盤なおし・二段水路の土掘り
64	中止	2014/2/16	-	かまくら	鎌倉中央公園	イネ・サツマイモの苗床づくりなど
65	完了	2014/2/20	12	トーキョー	サンシティ	樹木の植樹
66	中止	2014/2/23	-	トーキョー	宇津木台緑地	野鳥観察と巣箱の掃除

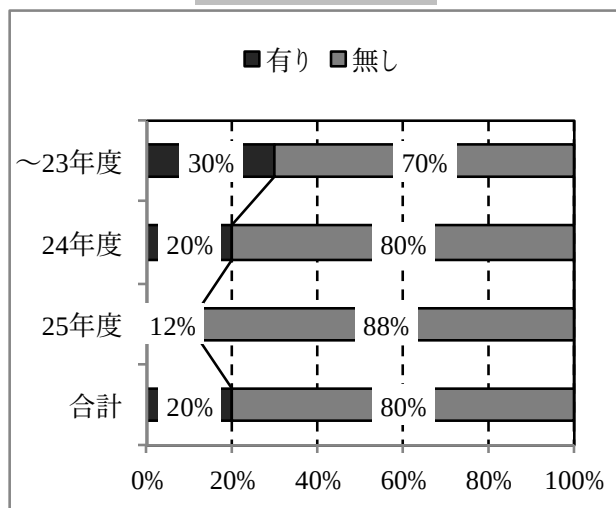
◆ レンジャーズ隊員の分析

平成 23 年度（2011 年度）までの登録者データ、平成 24 年度（2012 年度）の登録者データ、平成 25 年度（2013 年度）の登録者データをまとめると以下の通りになった。平成 25 年 3 月～平成 26 年 2 月を 25 年度とする。23 年度までの登録者数 247 名、24 年度の登録者数 552 名、25 年度の登録者数 405 名で合計 1183 名である（退会者除く）。

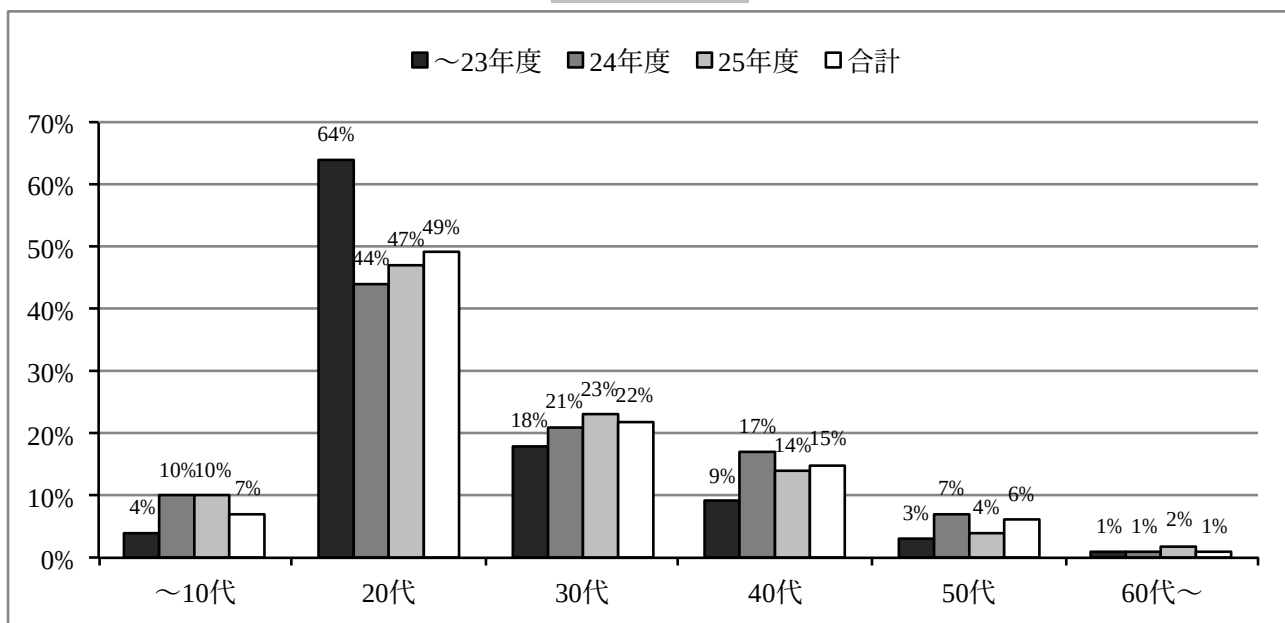
性別



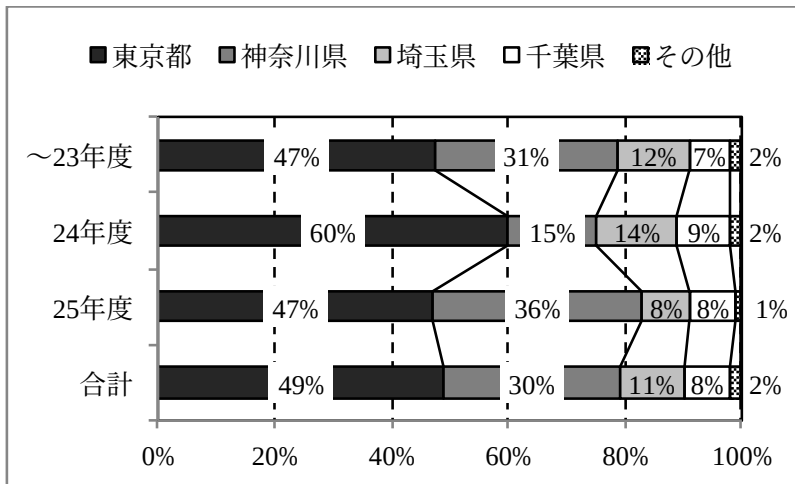
緑化活動経験



年齢層



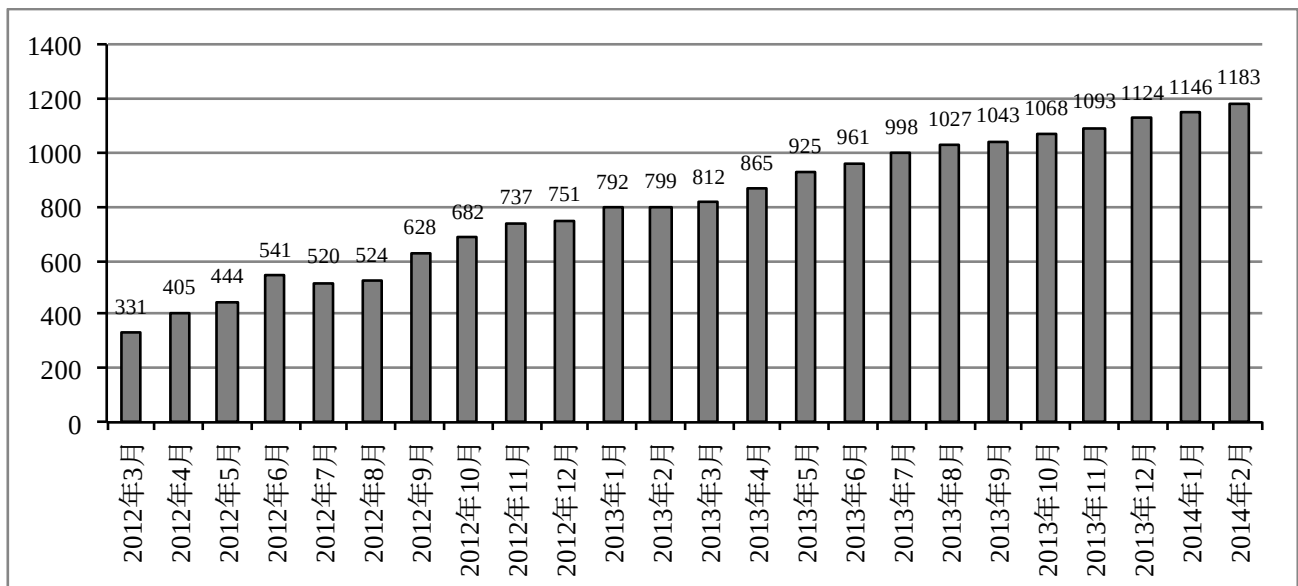
居住地



(その他)

栃木県、茨城県、山梨県、
静岡県、長野県、宮城県、
福島県、兵庫県、海外

登録者推移 (人)



これまでの参加累計

年度	回数	参加者数
平成 22 年度 (2010)	19 回	146 人
平成 23 年度 (2011)	44 回	489 人
平成 24 年度 (2012)	62 回	688 人
平成 25 年度 (2013)	56 回	688 人
小計	181 回	2,011 人

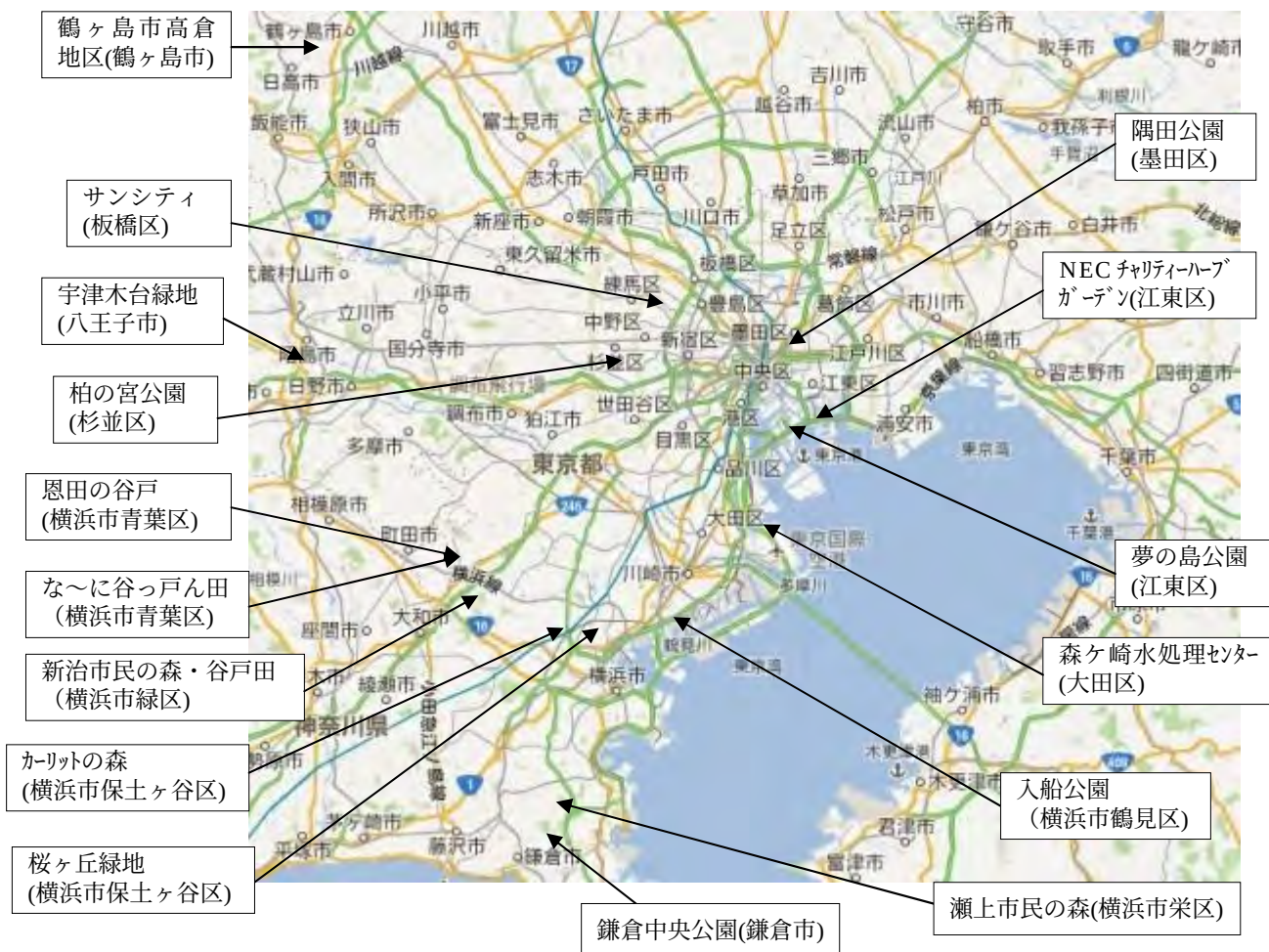
● 累計平均参加者数 11.11 人

(24 年度時計算より約 0.6 人増加)

【まとめ】

性別に関して、今年度は女性が若干多かった。緑化活動経験に関しては、今年度の登録者において「経験なし」の人が約 9 割であった。年齢層に関しては、20 代による登録が最も多い傾向が続いている。これまでの参加累計をみると、今年度は 1 回あたりの参加者数が例年よりも増加していることが明らかになった。

◆ レンジャーズプロジェクト 実施 MAP



地域名	フィールド名	活動団体
トーキョー	墨田区立隅田公園	隅田公園さくらパートナーシップ
	NECチャリティーハープガーデン	NECソフト株式会社
	夢の島公園・夢の島熱帯植物館	夢の島熱帯植物館
	森ヶ崎水処理センター	NPO 法人リトルターン・プロジェクト
	サンシティ内緑地	サンシティグリーンボランティアの会
	杉並区立柏の宮公園	柏の宮公園自然の会
	宇津木台緑地	宇津木台森遊会
埼玉	鶴ヶ島市高倉地区(飯盛川環境復元予定地、高倉郷屋敷林など)	高倉ふるさとづくりの会、里山サポートクラブ、鶴ヶ島市農業交流センターなど
よこはま 里山	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ
	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所
	カリットの森	“カリットの森”を守る市民の会
	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト
	入船公園	入船公園パークサポーター、入船公園管理事務所
	な〜に谷っ戸ん田	な〜に谷っ戸ん田の会
	新治市民の森・谷戸田	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会
	瀬上市民の森	瀬上さとやまのりの会
かまくら	鎌倉中央公園	NPO 法人山崎・谷戸の会

※フィールド紹介は誌面の都合上、抜粋とさせていただきます。

トーキョーレンジャーズ 宇津木台緑地

所在地：東京都八王子市久保山町

形態：八王子市所有の公園緑地

交通：JR八高線小宮駅から徒歩15分

<<活動団体>>

名称：宇津木台森遊会

代表：金森巖

担当：金森巖

設立：2011年（平成23年）



【フィールド概要】

八王子市久保山町に残る宇津木台緑地、八王子市が所有するこの雑木林が荒廃しており調査に基づく継続的な整備が必要であったことから、「宇津木台 森遊会（うつきだい しんゆうかい）」は、2011年4月 近隣企業の有志によって発足しました。一般市民などどなたでも参加できます。ビジョンは、「地域社会に愛される森をつくる」で、生物多様で健全な森を再生することにより、学校教育の場、住民の憩いの場を提供し地域社会に貢献することを目指します。



【レンジャーズを受け入れて】代表：金森巖様

レンジャーズの方々には竹林の整備をがっつりとお願いしました。お疲れさまでした。当会のメンバーは、若い世代（20～40代）が中心で驚かれたのではないのでしょうか。この緑地を整備する最終目的は、地域社会に愛される森として足を運び使っていただくことです。現代において森を使うとはどのようなことを意味しているのでしょうか。これを探るために整備の段階から様々なアトラクションを試行しています。様々なアトラクションを行うにあたっては、多種多様な人の参加や意見が必要です。今回、レンジャーズの方々にはまさに多種多様、今後のアトラクションへの参加のきっかけとなれば嬉しいです。参加をお待ちしています。



活動の特徴

今年度から新たなフィールドとして加わりました。これまでのトーキョーレンジャーズは23区内のフィールドだけでしたが、宇津木台緑地がフィールドに加わったことで23区を飛び出すこともできました。活動団体の中で森林インストラクターとして認定されている方もおり、竹林の間伐など難しそうな作業も丁寧に教えていただけました。作業に不安がある初心者でも安心して参加できると好評なフィールドの1つです。

トーキョーレンジャーズ サンシティ内緑地

所在地：東京都板橋区中台

形態：分譲マンション内緑地

交通：都営三田線志村三丁目徒歩 10 分

<<活動団体>>

名称：サンシティグリーンボランティアの会（SGV）

代表：金本一夫

担当：金本一夫

設立：1997 年（平成 9 年）



【フィールド概要】

活動場所は、1977 年から 1980 年にかけて分譲された、敷地面積 12.4ha、約 6,000 人が暮らすマンション群にある 4.5ha の緑地です。この緑地の維持のため、1997 年に住民によるボランティアグループとして会が設立されました。今では約 124 種・5 万本の樹木が茂る立派な森となっています。活動は週 1 回、毎回 20 ～ 30 人、年間約 1,300 人が参加しています。落ち葉の堆肥化、枝材のチップ化などゴミとせず上手く利用して自然と共存する活動が、財団法人都市緑化基金主催の「都市づくり部門」で 100 選に選定されるなど、国内外から注目されています。



【レンジャーズを受け入れて】代表：金本一夫様

サンシティは、レンジャーズの若い人たちのお陰で平成 25 年度の第 33 回緑の都市賞総理大臣賞を受賞しました。サンシティの緑の活動に参加していただいた皆さんに感謝しています。サンシティは、色んな分野の多様性について取り組んでおり、レンジャーズの皆さんのフレッシュなご意見は、サンシティの緑の在り方について大きく貢献しており、これからも色んな面からのご意見を頂けることを期待しています。サンシティの町山づくりに、元気で・楽しみながら参加してください。



活動の特徴

レンジャーズプロジェクト誕生のきっかけとなったフィールドです。都営地下鉄の駅から住宅などの間を抜けるまで都市の景観ですが、一歩中庭に入ると大きな木々が青々と茂り、山深い里山に来たかと思間違うようです。一般的にマンション内の緑地は管理組合が業者に委託する事が多いようですが、こちらでは大半の作業をボランティアの皆さんが実施されています。ボランティアだからこそ守られる自然があることを学ぶとともに、この緑を次世代に繋ぐためレンジャーズも参加しています。

トーキョーレンジャーズ 杉並区立柏の宮公園

所在地：杉並区浜田山

形態：協定に基づき行政とボランティア団体が協働管理

交通：京王井の頭線 浜田山駅より徒歩7分

<<受入団体>>

名称：柏の宮公園自然の会

代表：梶山信夫

担当：田中豊子

設立：2002年（平成14年）



【フィールド概要】



杉並区立柏の宮公園は2004年（平成16年）に開園。その公園づくりにあたっては、公園計画を考える「集う会」や専門委員会が開催され、延べ380人を超える区民が話し合いを重ね、公園憲章や基本計画の策定などが行われました。そして、その過程で予定地に残されていた自然に触れ、それらを極力保全してさらに豊かに育んでいこうと集った仲間、2002年（平成14年）に柏の宮公園自然の会が設立。行政や他団体と話し合いを重ねながら、公園全域にわたる植生、水辺などの生態系保全管理作業を行い、冬期湛水不耕起稲作や自然観察会なども

企画運営しています。（詳細は「柏の宮公園自然の会」でWEB検索を！）公園には、深さや明るさなどが異なる3つの池や、広い草地、田んぼ、アカマツやイヌシデなどの樹林地など変化にとんだ自然環境があり、住宅地の中のオアシスのような存在となっています。

【レンジャーズを受け入れて】柏の宮公園自然の会事務局、植生管理担当世話人 田中豊子様



東京都区内にもまだこのような自然が残されていることにびっくりされる方が多いですね。住宅地のど真ん中に残されたこのような場所こそなくてはならないと強く感じます。また、単に観察だけするよりも、生態系を維持する為の作業を行いながらの方が、様々な生き物達と遭遇する機会も多く、より深く自然に親しめますので、こういう自然の楽しみ方を多くの方にわかっていた

できれば嬉しいです。身近な自然環境を身近な大人達が率先して守り育む姿勢こそが、子ども達にとっても一番の環境教育であるとも感じておりますし、より多くの方々が楽しみながら気軽に体験を重ねて、このような活動の輪がますます広がっていく事を願っております。

活動の特徴

通常のレンジャーズのほか、東京テクニカルカレッジの生徒を受け入れていただいています。参加した隊員はみな、会員の方の熱心さに心を打たれているようです。ここでの活動がきっかけとなり、自らも植物や動物に関心を持つようになった参加者も多くいます。施設面、交通の便も良いことから初心者にも最適なフィールドとして、お勧めしています。今後は、地域の人はどう参加してもらうか、レンジャーズの隊員がどうしたら定着してもらえるかが課題です。

トーキョーレンジャーズ 墨田区立隅田公園

所在地：東京都墨田区向島

形態：墨田区管轄の公園を協働で維持管理

交通：都営浅草線本所吾妻橋駅徒歩5分

<<活動団体>>

名称：隅田公園さくらパートナーシップ

代表：増村多喜雄

担当：石野秀紀（事務局）

設立：2006年（平成18年）



【フィールド概要】

隅田公園は、隅田川の左岸に位置し、対岸は浅草、背中にスカイツリーと、古くから発展する町と、最新の町が共存する場所に位置しています。江戸時代から続く墨堤の桜を次世代に継承するため、「隅田公園を通じて地域コミュニティをさらに活性化していく」ことをコンセプトの1つとして掲げ、より多くの人の憩いの場として楽しめる隅田公園となるよう、平成18年より区とのパートナーシップにより活動しています。主に①桜の保全活動（調査・根元への植花など）②間伐材の利用活動③広報PR活動を実施しています。



【レンジャーズを受け入れて】事務局：石野秀紀様

「トーキョーレンジャーズ」さんに私たちの活動のお手伝いに来て頂くのも、3年目になります。今年度は、3月さくらの花芽調査、5月・8月の灌水・除草作業に来て下さいました。隅田川花火大会で進入された花壇の灌水作業等をしていただいたおかげで、コスモスも復活して咲きました！ありがとうございました！

花芽調査などは、さくらの見方が学べたり、さくらや緑への興味のきっかけになってくれればと思います。若い皆さんが、そういった知識や経験を早い段階で参加し学ぶことは、良いことだと思います。私たちも人手不足や高齢化などの課題もあり、また皆さんのお力を借りられればと思っております。これからもよろしくお願いします。



活動の特徴

隅田川といえば春の桜、夏の花火大会が有名ですが、ここ隅田公園はそのどちらを見るのにも絶好のポジションです。それだけに、毎年花見や花火大会の日には大変な数の人が隅田公園にも訪れます。しかし、残念ながら折角きれいにした花壇も見物の方に踏まれてしまう事も数多くあり、都市部での自然のありかた、管理の難しさを学ばせていただいています。さくらや花壇整備の活動が多いので、花好きの隊員にも人気のフィールドです。

トーキョーレンジャーズ 夢の島公園・夢の島熱帯植物館

所在地：東京都江東区夢の島

形態：指定管理施設

交通：地下鉄有楽町線・JR 京葉線・りんかい線
「新木場」下車 徒歩 15 分

<<活動団体>>

名称：夢の島熱帯植物館

代表：榎本 浩

担当：今村清敏

設立：1988 年（昭和 63 年）



【フィールド概要】

都立夢の島公園は 1978 年に、運河と水路に囲まれた面積 43 ヘクタールの総合公園として開園しました。もともと夢の島はゴミの最終処分場でしたが、今となっては都心に近い緑豊かな公園となっています。隣接する新江東清掃工場から送られてくる高温水を利用した「夢の島熱帯植物館」があり、東京都の亜熱帯、小笠原にしかない貴重な動植物が数多くいます。屋外の花壇などでは、季節によってさまざまな表情を見せる植物が数多くあります。このほか敷地内には、Bumb、第五福竜丸展示館などの施設があり、土日は多くのお客様で賑わっています。



【レンジャーズを受け入れて】施設管理担当：今村様



今年も公園、植物館で行われたたくさんの行事にご協力いただきました。レンジャーズの方々は謙虚さや学びに対する意欲を持っている方が多く、一緒に作業をするのがとても楽しかったです。自然薯収穫ボランティアでは労力のいる作業にもかかわらず、お客様と一緒に、自然薯の育成状況を観察するなど、興味を持って活動していただき、公園の魅力を伝える側としても大変充実した行事となりました。その他、チューリップ球根植付や小学生向けイベント「森の学校」では、子どもたちが楽しそうにレンジャーズの方と接しており、環境教育の場でも活躍していただきました。ぜひともまたご協力いただきたいと思います。

活動の特徴

職場体験プログラムの一環として、学生優先のレンジャーズとして実施。植物館のバックヤードなど通常ではあまり見ることができない場所にも入ることができ好評です。植物館への就職希望の学生も多く参加していますが、植物館の仕事がイベントや安全管理が多いことを知り、理想と現実の違いを知る機会にもなっています。今後もレンジャーズでは、「公園はみんなで楽しもう」をモットーとし、都民協働を目指します。

かまくらレンジャーズ 鎌倉市立鎌倉中央公園

所在地：鎌倉市山崎

形態：鎌倉市と協働で実施

交通：JR 大船駅よりバス 15 分

<<活動団体>>

名称：特定非営利活動団体 山崎・谷戸の会

理事長：相川明子

事務局長：黒川美加

設立：2004 年（平成 16 年）

（前身の鎌倉中央公園を育てる市民の会）



【フィールド概要】

鎌倉中央公園は、かつて多く見られた景観が残された 23.7 ヘクタールの風致公園です。この内には谷戸と呼ばれる小高い山や丘陵に囲まれ、谷が細長く続くような地形があり、これを活かした保全活動を 7 つの班（田んぼ班、畑班、雑木林管理班、生態系保全班、植物育成班、農芸班、自然遊び班）に分かれて行っています。単なる農村体験にとどまらず、昔ながらの作業を通じ文化や景観を受け継いでいくことによって、貴重な生き物が暮らせる豊かな生態系を維持していくことも目標です。日曜日の午前中を中心に、赤ちゃん連れ家族から高齢者までいろいろな人が集まって活動しています。初心者向き講座「谷戸塾」（保育付き）も好評です。



【レンジャーズを受け入れて】

畑班 田中敏恵様

皆さんが来てくださると平均年齢がグッと若返り、元気とパワーをもらっています。先日は、どんどこ焼きの団子作りを手伝ってもらい、300 個のお団子が見事にできあがりしました。昔ながらの貴重な作業を、興味を持って熱心に取り組んでくださいました。作業に参加する子ども達とも仲良くなって楽しく活動してもらいました。今後も様々な活動に参加していただき、一緒にできると嬉しいです。

田んぼ班 淡中京子様

苗床開墾・田の草取り・田うない等の、大変な作業に若い方々がたくさん参加してくださり、こちらも元気になりました。回を重ねるごとに、引率者やリピーターさんと親しくなれ、活動がしやすくなりました。「都会で仕事をしているので、ここに来て体を動かすとリフレッシュできるんです」と、遠くから来てくださるので感謝です。

活動の特徴

自然を守るだけではなく、地域の文化も守りながら、古くからある里山に関わることを全般的に実施されています。雑木林の作業から農作業まで、バラエティに富んだ活動をされています。レンジャーズの隊員は農業に興味を持つ人も多く、畑仕事は遠くからのリピーターもいる人気の現場です。

埼玉レンジャーズ 鶴ヶ島市高倉地区

所在地：埼玉県鶴ヶ島市高倉

形態：農地・屋敷林等で農家、市民団体、行政が協働。

交通：東武東上線 一本松駅 徒歩15分

<<活動団体>>

名称：鶴ヶ島市 農業交流センター

代表：小久保輝彦

担当：原田信（事務局）

設立：平成10年11月



【フィールド概要】

埼玉県のほぼ中央に位置する鶴ヶ島市高倉地区には、600年以上前から続く屋敷林、雑木林や広々とした農地が広がっています。そのうち100haのエリアを“ふるさと”として保全しようと平成17年に“ふるさとの郷構想”を制定しました。地元の農家を中心とした“高倉ふるさとづくりの会”をはじめ、市民団体と行政が協働で粘り強く活動してきました。現在、昭和50年代の土地改良事業で3面護岸化した水路を、生物多様性に配慮した自然河川に還元する工事が進められています。外来種を防除しつつ、ミソハギ、ノカンゾウ、セキショウやコウホネ等の植生の復元作業も進められる予定です。



【レンジャーズを受け入れて】鶴ヶ島市農業交流センター 原田信様

今年は今までの草刈り／竹伐りレンジャーズ以外に、都内の企業が大型バスに乗ってやってくるという、グリーンツーリズム型の“CSR レンジャーズ”が実現しました。驚いたのは地元の農家です。「何にもない」と思っている鶴ヶ島にわざわざ、大型バスに乗って50名以上の方々が訪れたのです。が、この日は年に一度の獅子舞年行事と重なっており、CSR レンジャーズの皆さんと十分な交流ができませんでした。“振舞い”の文化の残るこの地のこと、地元の皆さんは気に病み、誰とはなしに「今度からレンジャーズが来たら、なんか鶴ヶ島のモンを食わせっぺよ。」という声が上がってきたのです。”農家で茶が出たら認められた証拠”です。2年かかりましたがプライドのカタマリのような高倉郷の農家が、レンジャーズに「ありがとう」を言ったのです。池袋から電車で40分の高倉郷の里山環境が今まで保全されてきたのは、地域農家の気難しい保守性にあります。超高齢化が進むこの地域にとってレンジャーズは今や希望の光になりつつあるように思います。今後ともよろしくお願い致します。



活動の特徴

高倉地区のフィールドの一つである飯盛川は、今年度復元作業が行われています。来年度からは、自然復元された場所としてどのように変化していくかが楽しみなフィールドです。レンジャーズが参加を楽しみにしてくれているとのこと、今後は、地元の鶴ヶ島や東武東上線沿線の若者の参加を促すことが、レンジャーズの課題です。埼玉レンジャーズの拡大も期待されています。

よこはま里山レンジャーズ 入船公園

所在地：横浜市鶴見区弁天町

形態：指定管理施設

交通：JR 鶴見線 浅野駅 徒歩 3 分

<<活動団体>>

名称：入船公園パークサポーター

入船公園管理事務所

担当：相京大成

設立：2004 年（平成 16 年）



【フィールド概要】

「入船公園に多くのトンボを呼ぼう！」入船公園には、シオカラトンボ・ギンヤンマ・ウスバキトンボなどなど、たくさんのトンボが生息しています。特に、野草を残して管理している、草原ビオトープエリアには多くのトンボがやってきて、休んでは、また水辺を求めてどこかへ飛んでいきます。それを繰り返しているようです。以前、噴水がありましたが、閉鎖している状況で、残念ながら、入船公園に水辺はありませんでした。トンボはどこまで飛ぶかフォーラムの活動を通して、京浜地区のトンボの調査を実施しました。「公園に、もっと多くのトンボが集まり、産卵できるような、水辺を作りたい」という思いから、最初は小さなパレットトンボ池から始まり、現在は、水景跡地全体に土を入れ、水草を植栽し、徐々に、エリアを拡大しております。おかげさまで、ギンヤンマやシオカラトンボ等のヤゴの生息も定着してきました。今後は、更に豊かなトンボ池を目指します。



【レンジャーズを受け入れて】 入船公園管理事務所長：相京大成様



公園内で閉鎖している、水景色跡地を、生物が生息できる空間にするべく、土を入れ、水をはり、小川のような「トンボ池」を作るため、レンジャーズにお手伝いをお願いしました。水草や、メダカ等の生き物は、周辺地域の企業や団体のビオトープエリアからわけていただきました。そのため、当日はレンジャーズのメンバーに加えて、水草等をわけていただいた、地域の企業や団体の方々や、公園で美化活動を行っているボランティアのみなさんと、協働で作業を行いました。レンジャーズのメンバーの皆様は、率先して作業を行う方ばかりで、水草や、メダカや、ヤゴ等の生物に詳しく、泥だらけになりながら、大変楽しそうに作業されていました。そして一緒に作業を行う他の市民や、公園スタッフと情報交換しながら、交流し、とても充実した有意義なひと時を過ごせました。

活動の特徴

レンジャーズプロジェクト誕生のきっかけとなったフィールドです。都営地下鉄の駅から住宅などの間を抜けるまで都市の景観ですが、一步中庭に入ると大きな木々が青々と茂り、山深い里山に來たかと思間違ふようです。一般的にマンション内の緑地は管理組合が業者に委託する事が多いようですが、こちらでは大半の作業をボランティアの皆さんが実施されています。ボランティアだからこそ守られる自然があることを学ぶとともに、この緑を次世代に繋ぐためレンジャーズも参加しています。

よこはま里山レンジャーズ 恩田の谷戸

所在地：横浜市青葉区

形態：農家の許可を得て民有地で活動している

交通：こどもの国線恩田駅から徒歩 10 分

<<活動団体>>

名称：恩田の谷戸ファンクラブ

代表：藤田廣子・高橋多枝子

担当：藤田廣子

設立：1991 年（平成 3 年）



【フィールド概要】

恩田の谷戸は、東京から約 1 時間の大住宅地の真ん中に島のように残された、雑木林、田んぼ、小川が揃った貴重な里山です。多様な生き物の棲む谷戸の自然と文化を次代の子どもたちに引き継ぎたいと、田んぼや畑作業、森の下草刈りや炭焼き、小川の整備などを行い、昼には自分たちで作った黒米のご飯と谷戸の農家の野菜で昼食を作ってみみんなで食べます。レンジャーズのみなさんには、ちょっと昔の足ふみ脱穀機での脱穀体験やとうみをさせていただきました。作業には会で野菜券を発行、谷戸の農家の直売所で使うことができます。



【レンジャーズを受け入れて】世話人：藤田廣子様

若い人たち 10 名に来ていただき、会が活気づいて楽しくなりました。雨で作業ができなくなった時は、皆さん、仕事がしたかった、と残念がっていて頼もしく思いました。反面、お互いに初めての試みだったため、レンジャーズの皆さんは、緊張して精一杯働かなくてはならないと思っていたようで、当会はみんなマイペースで、ボランティアは自分のやりたい事をすればいいんだよ、という考えでしたが、もっと休憩や担当替え等を細かく気を配ってあげた方がよい、と反省しました。おかげでたいへん作業がはかどり、新入会もありとても助かりました、感謝申し上げます。

里山は森林ではありませんので、重要な水辺の作業にもお手伝いいただけるとありがたいですし、春先の作業にも適用されるといいと思いました。

活動の特徴

こちらのフィールドの大きな特徴は、谷戸田があり、お米づくりを軸とした里山の保全活動が行われている点です。脱穀などの作業では、近所の農家の方より、唐箕（とうみ）と呼ばれる収穫した稲を脱穀した後、籾殻や藁屑を風によって選別する農具を借りて作業するなど、景観だけでなく文化も含めて受けついでいこうと活動されています。レンジャーズ隊員も、そうした部分を体験できることも、大きな魅力に繋がっていると言えます。

よこはま里山レンジャーズ カーリットの森

所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向町

形態：企業の保存協定林

交通：相鉄線和田町よりバス 17 分

<<活動団体>>

名称：“カーリットの森”を守る市民の会

代表：中村雅雄

担当：伊藤博隆

設立：1997 年



【フィールドの特徴】



横浜近郊に残る貴重な緑地です。元は日本カーリット社という火薬工場の実験施設が戦前からあり、施設内及び周辺は緩衝地帯として森林が残されていました。工場は移転し、跡地は老人ホームと横浜市の公園となり、周囲の緑地の多くはまだ残されています。森の林床の大部分はアズマネザサ（篠竹）が数多く繁茂しており、レンジャーズの参加者には主にこの篠刈りをしてもらっています。最初に森の価値、作業の意味をレクチャーし、森がさっぱりしていく爽快感を味わってもらっています。所々シロダモなどの5m前後の常緑樹を切り倒して

おり、この作業は男性に好評です。森の手入れが進んだからなのか、最近ではオオタカやフクロウといった猛禽類の生息が確認されています。

【レンジャーズを受け入れて】代表：中村雅雄様



通常は5～6名で活動していますが、レンジャーズで10名前後の方に参加して頂くと、総勢15名ほどの活動になります。人数が多いと作業の進み具合が極めて早く、自分たちだけでは出来ないような活動ができると思います。これまでも会の活動に参加する若い人はいましたが、定着する人は殆どいませんでした。レンジャーズでは近隣の人も来ているようなので、今後直接、会の活動に参加してくれる人が増えることを期待しています。

昨年に引き続き、企業のボランティアとして資生堂の方にも参加していただき、大勢で来て頂いたので、作業が一気に進みました。会にとっても貴重な戦力ですので、今後とも宜しくお願いします。

活動の特徴

横浜駅から比較的近い距離にありながらも、豊かな森が広がっているフィールドです。これまでは森の大きさに対し少人数で活動していて、先が見えない状況だったとのこと。レンジャーズで一気に整備が進み、これからの新たな活動メニューを考えれる、とのこと。今後の展開が楽しみなフィールドの一つです。

よこはま里山レンジャーズ 川井緑地

所在地：横浜市旭区下川井町

形態：民有地、市有地

交通：相鉄線三ツ境駅からバス、
川井橋又は旭高校入口バス停

<<活動団体>>

名称：NPO 法人よこはま里山研究所

代表：松村正治

担当：下山康博

設立：2000 年（平成 12 年）



【フィールド概要】

川井緑地は旭区にある約 5ha の保全緑地です。長いあいだ手入れがされず荒れた状態になっていましたが、森林に手を入れて「豊かな森づくり」に取り組むとともに、間伐材などの「森の恵み」を利用しながら森とかかわる暮らしを探って来た結果、少しずつ心地よい森になってきました。周辺にはかつて多くの不法投棄廃棄物がありましたが、森が手入れされたり、地元の高校と協力して施設改修などを行ったことにより、不法投棄も随分減りました。

会の活動では、本格的に針葉樹の伐採や製材なども行っていますが、レンジャーズの参加者には、初心者でもできる萌芽や下草刈り、伐採した材の整理・皮むき、搬出などを手伝ってもらっています。よこはま里山レンジャーズのフィールドで最も本格的な山仕事に触れることのできるフィールドです。



【レンジャーズを受け入れて】ヤマ仕事担当理事：中林博志様

川井緑地では、毎回チェーンソーを使った樹木の間伐や伐採木の運材をメインに活動しているので、普段はなかなか手が回らない常緑樹の萌芽掻きなどをレンジャーズの方々に実践していただき、林床がすっきりしました。春の芽吹きが楽しみです。また玉切った丸太の皮むきなど珍しい体験もしていただきました。成果がはっきりわかる活動で充足感も味わえたと思います。

またのご参加をお待ちしています。針葉樹林のフィトンチッドを吸い、一緒にたき火を囲んで森を語り合いましょう。

活動の特徴

このフィールドは一般的な里山と異なり、奥山のようにスギヒノキなどの針葉樹が立ち並ぶユニークな場所です。ここで活動している NPO 法人よこはま里山研究所の皆さんは、チェーンソーやエンジンウィンチ、製材機など様々な道具を駆使し、林業の現場のような感じで作業を進めています。レンジャーズ隊員は動力機械を扱いませんが、募集の際は「がっつり度★★★★★」と最高ランクです。

よこはま里山レンジャーズ 桜ヶ丘緑地

所在地：横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘
 形態：神奈川県トラスト緑地
 交通：相鉄線天王町駅 徒歩 10 分

<<活動団体>>

名称：桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト
 代表：荒川正登
 担当：荒川朱美
 設立：2006（平成 18）年



【フィールド概要】



桜ヶ丘緑地は保土ヶ谷区の市街地の中に残る、神奈川県が所有する斜面樹林地を主体としたトラスト緑地です。元はガラス瓶の製造工場があった場所で、当時の遺構も所々にあります。15年間放置されていたテニスコート跡地に、森や田んぼを自分たちの手で作り、豊かな自然を再生しようというプロジェクトです。市民によって湧水を活用した水田が市民によってつくられるなど、里山景観が復元しつつあり、田んぼは地元の小学校の、環境学習のフィールドとして役立っています。

横浜駅にほど近い活動場所はレンジャーズ参加者にも好評で、参加者には下草刈りやアオキ、シュロなどの常緑樹の小径木の伐採や水田の整備などを行ってもらっています。

【レンジャーズを受け入れて】副代表 中林博志様

このところ常連メンバーの高齢化と多忙化で、実活動者の減少に悩んでいた当プロジェクトですが、暑さ・寒さをもものとしめないレンジャーズの活躍ぶりに感謝しています。特に毎回 10 人から 20 人近い方々の活躍により、樹林の下層を覆っているアオキやヤツデ、シュロなどがすっきり除去された箇所が際立っています。表土が現れたことで、ニリンソウなどの春植物が元気を取り戻してくれるのを期待しています。今年は学校水田の整備もお願いできました。

また、若いレンジャーズとともに活動して、従来からのメンバーも元気をいただいています。今後、リピーターの参加があれば本当にうれしい限りです。

活動の特徴

このフィールドは横浜駅から電車で 3 駅、そこから歩いて 10 分というアクセスの良さが魅力です。フィールドまでの道のりは、ビルの間を歩いていき、初めて訪れる人は「ここにフィールドがあるの？」と思われれます。企業の研修所の裏山に森があり、田んぼがあり、意外なほど緑が多いのが特徴です。都市と自然が共存する、横浜らしいフィールドと言えます。

所在地：横浜市栄区上郷町

形態：市民の森（横浜市制度）

交通：JR根岸線「港南台駅」徒歩20分

<<活動団体>>

名称：瀬上さとやまもりの会

代表：会長 山上東平

担当：事務局長 中塚隆雄

設立：2012年に旧4団体を統合



【フィールド概要】

瀬上市民の森は横浜市で3番目に大きな市民の森で、横浜から鎌倉、三浦半島へとつながる広大な森の北端に位置します。緑あふれる森の中では、稀少種を含むたくさんの動植物が生息しており、市民と地権者と行政の協働により守られています。

瀬上市民の森は、瀬上池を中心に、周囲を小高い山に囲まれた横浜に残る最大規模の「谷戸」であり、その尾根からは「関東の富士見百景」（国土交通省選定）に選ばれる程、富士山の全体を見渡せる素晴らしい眺望が広がります。



【レンジャーズを受け入れて】事務局長：中塚隆雄様



2013年度にはじめてレンジャーズを受け入れさせていただきました。

一回目は樹林地の保全活動で斜面の草を刈って、落葉広葉樹とヤマユリの環境作りをお手伝いいただきました。二回目は、水辺の保全活動で湿地のヨシを刈って、カエルが産卵できる開放水面を維持していただきました。ヤマユリの里まではまだ何年かの時間がかかりそうですが、湿地では今年もたくさんのヤマアカガエルが産卵し、オタマジャクシが泳ぎ出しました。メンバーが高齢化しつつある当会では、若い方々との交流への期待は大きく、今回もレンジャーズに参加されたお二人が、当会のボランティア養成講座に参加され活動を続けておられます。

活動の特徴

こちらのフィールドは、横浜南部にある大きな森の一角にあります。池や田んぼといった水辺空間があるため、豊かな生態系が形作られています。「瀬上さとやまもりの会」さんはこの広いフィールドで精力的に活動されており、かなりハードな作業もされているため、ガッツリ度★★★★★の最高ランクのミッションが多くあります。

よこはま里山レンジャーズ な～に谷っ戸ん田

所在地：横浜市青葉区恩田町

形態：私有地、谷戸の農家の作業をお手伝い

交通：こどもの国線恩田駅より徒歩 15 分

<<活動団体>>

名称：な～に谷っ戸ん田の会

代表：石田周一

担当：石田周一

設立：2007 年（平成 19 年）



【フィールド概要】

横浜北部、東京都町田市と接する丘陵地帯に広がる谷戸田（やとだ）と呼ばれる田んぼや畑や雑木林のある谷戸。周辺は宅地開発が進んでしまいましたが、このフィールド周辺には豊かな緑が残されています。そんな横浜の伝統的な風景の中で、横浜市が実施する「栽培収穫体験ファーム」という、農家が開設・経営する体験型の市民農園で唯一の田んぼの農作業を行ってきました。



【レンジャーズを受け入れて】代表：石田周一様

横浜青葉区の谷戸の素晴らしさを多くの方々と共有したい、が、第一。会員だけではこなしきれない作業を手伝っていただきたい、が、第二。第三に、参加者それぞれが自分の関心や感覚で何かを得てくださればと思いました。受け入れる私たち自身も新しい出会いを楽しみたい。谷戸の自然のように多様性のある会でありたいという思いがありました。稲刈りに参加していただき、谷戸の奥深さと農の豊かさを感じていただけたと思います。いい秋の一日でした。会としては活動を休止することになりました。青葉区や周辺には様々な楽しい活動があります。また、お会いしましょう！



活動の特徴

今年度の新しいフィールドの1つです。横浜市が実施する「栽培収穫体験ファーム」という制度を利用した、農家が開設・経営する体験型の市民農園では唯一の田んぼ（他は畑）です。レンジャーズでは、稲刈りとハザかけ（稲を干す作業）を実施しました。好天の秋日の中、日本人の主食である「米」の恵みを感じられました。改めて農業について考えることができるフィールドです。

よこはま里山レンジャーズ 新治市民の森・谷戸田

所在地：横浜市緑区新治町

形態：農地を特定貸付法により借地

交通：JR横浜線 十日市場駅より徒歩 15 分

<<活動団体>>

名称：NPO 法人新治里山「わ」を広げる会、
(谷戸田を守る会は上記団体のプロジェクト)

代表：仲丸平八

(谷戸田を守る会代表 横路明介)

設立：2006 年（平成 18 年）



【フィールド概要】

横浜北部の新治市民の森一帯は、里山景観の色濃く残る場所です。雑木林や竹林、スギ林、農地がモザイクのように広がり、立派な日本家屋が「にいほる里山交流センター（旧奥津邸）」として公開されています。しかし谷戸の田んぼは少なくなり、周囲を森に囲まれた奥の田んぼ（新治市民の森の一角）は市民団体が維持しています。



【レンジャーズを受け入れて】NPO 法人新治里山「わ」を広げる会 理事：吉武美保子様

谷戸田を守る会（平成 23 年より NPO 法人新治里山「わ」を広げる会のプロジェクト）は、平成 14 年より緑区の呼びかけで集まった人たちによって発足しました。平成 18 年に自律した会となり、田んぼの維持を行ってききましたが、周辺環境の保全管理作業がなかなか一貫してできないでいました。田植え前と土用の草刈りは、人とのかかわりの中で残されてきた草地性植物の保全にとって大事な作業ですが、田んぼそのものの作業に会員が追われていたので、その分を、レンジャーズの力を借りることにしました。

おかげでいっぺんに作業が終わり、秋の花々が例年以上に多く咲いていました。また、適切な時期と刈り方で、多様な植物が育ち、そのことで害虫の大量発生を防いでくれていることも、その後の調査でわかりました。草刈りが重要な作業であることが会員に認識されたことも大きかったです。

活動の特徴

新治市民の森・谷戸田は、横浜の昔の里山の面影を良く残している、素敵なフィールドです。緑豊かな自然環境だけでなく、「旭谷戸広場・つどいの家」もあり、自然環境と生活環境の調和を感じることもできます。東急田園都市線の長津田（ながつた）駅からひと駅で、アクセスも良好です。昔懐かしい雰囲気味わいながら活動できるフィールドです。

◆NEC ソフト株式会社 CSR 推進部 様

チャリティハーブガーデンプロジェクトを通じた交流

NECソフト株式会社 経営企画本部 CSR 推進部 星野光一様

チャリティハーブガーデンプロジェクトは、NECソフトの地域貢献活動として 2006 年に発足。東京都港湾局に新木場駅前の緑地帯を借用し、ハーブガーデンを造園・管理し景観美化に努めています。緑化 NPO 法人 GreenWorks にガーデニングの支援を受け、新木場の景観美化に留まらず、社員や地域の方々によるハーブガーデンのハーブを利用した加工品作り、その加工品の地域イベントでの販売を行なっています。売上金は自然環境復元協会等の NPO 法人や地域団体に寄付し、環境保全や東日本大震災支援に活用いただいています。また、2012 年より、新木場のハーブを活用した東日本大震災での被災地支援として、宮城県気仙沼市の大谷中学校仮設住宅や宮城県本吉郡南三陸町の波伝谷地区仮設住宅にハーブの挿し木を提供しました。仮設住宅でのボランティア団体「あんでねっと@大谷」とも連携し、この団体が作る加工品に新木場のハーブを活用していただいています。この活動によって人と人がつながり、被災地ともつながる。IT 企業だからこそ「コミュニケーション」への想いとこだわりをこのプロジェクトを通じて、一つひとつ実らせていきたいと考えています。

【取り組み内容】

6 月 22 日 ラベンダーまつり 31 名参加

新木場駅前のハーブガーデンにおけるラベンダー収穫作業では、2011 年 7 月からレンジャーズのボランティア派遣をいただいています。昨年に引き続き、「ラベンダーまつり」と称した合同収穫祭でレンジャーズの方々にもお手伝いいただき、社員や地域の方々と交流していただきました。ガーデン一面に咲くラベンダーはとても社員ボランティアでは収穫しきれないため、レンジャーズを派遣いただくことに感謝しています。今回収穫したラベンダーは、社員が作成するハーブ加工品の材料として活用させていただきました。



10 月 19 日・20 日 江東区民まつり 14 名参加

2008 年より「江東区民まつり・中央まつり」にブース出店し、ハーブ加工品の販売や新木場のハーブで抽出したエキスを使った「ハーブ石鹸づくり」を実施し、毎年 2 日間で約 1,000 名以上の方にお越しいただいています。レンジャーズには 2011 年よりハーブ石鹸づくりを、加えて 2013 年は種団子作りの指導のお手伝いいただいています。なお、今年は 2 日目が荒天のため午前中のみの実施となりましたが、悪天候にも関わらず駆けつけていただき、感謝しています。レンジャーズの方々には、いつも主体性の高さや幅広い層の厚さを感じています。レンジャーズの方々と接することは、社員ボランティアにとっても良い刺激となっています。



【レンジャーズの受入について】

地域の景観美化向上を目的に造園したハーブガーデンが、企業・行政・住民・NPO の新たなコミュニケーションの機会を作り出しました。特にレンジャーズとの連携により、チャリティハーブガーデンプロジェクトの活動がより広がりを見せました。この連携が、都市環境をよりよくしようとする次世代の育成の契機となれたらと期待しています。企業の社会貢献活動は、どうしても内向きの活動になりがちです。レンジャーズとの連携が、こうした活動を外向きに、さらにビジネスでは繋がることのない「つながり」を作り、社会に向けた新たな価値を生み出すと信じています。

◆ 株式会社資生堂 研究推進部 様

企業協働の拡大における新たな課題と“企業レンジャーズ”出動への期待

株式会社資生堂 研究推進部

弊社では社会貢献活動の一つとして「未来椿活動」を推進しています。この活動は創業以来弊社を支えてくださっている社会・お客さまに対して感謝の意を表すことを目的としており、創業 140 周年の節目を迎えた 2012 年より継続して取り組んできております。この活動の特色は、社員一人ひとりが自ら感謝の気持ちをどのようなカタチで表現するかを考え、実際に行動に移すというところにあり、私ども研究推進部でも社員の発案によるいくつかの企画を具現化し、全員が一丸となって取り組んでいます。

このような中で今回の協働は、2012 年に“隊員”として“出動”させていただいた部員が発案し、“カーリットの森”を守る市民の会様やレンジャーズプロジェクトコーディネーター様のご理解ご協力を頂戴して、普段は行われない「平日“出動”」を可能にさせていただいたことで実現することができました。

【取り組み内容】

実施日：2013 年 10 月 17 日(木) 14:00～16:30

実施場所：カーリットの森（横浜市保土ケ谷区）

受入団体：“カーリットの森”を守る市民の会

参加人数：20 名

作業内容：アズマネザサなどの下草刈り

シロダモなど常緑樹の間伐



【協働を振り返って】

環境活動関心層などの潜在的な“隊員”たちの都合と現地受入団体のニーズとのマッチングに成功したモデルであるレンジャーズプロジェクトは、企業にとっては“お役に立ちたい”という社会貢献の発意を端的に叶えることができる“魅力的な仕組み”であると言えます。この一方、今後の企業協働の拡大を念頭において、企業内において社員の参加をより促しやすくすることを考えますと、願わくは「平日“出動”」がより柔軟なかたちで実現できるようになってほしいとも評価しています。「平日“出動”」にあたっては、対応可能な人員の確保やその手当など、これまでにない新たな課題に挑戦することになりますが、今回協働させていただきました私どもとしましては、相互理解が進み、課題が克服され、多くの“企業レンジャーズ”が誕生し、活発に“出動”できるようになることを期待しています。

ご参加者のアンケートより

- ・ ボランティア団体のニーズを把握されており、とても素晴らしい活動をされていると思います。
(30 代、男性)
- ・ 参加して少しは自然に役立った気がします。今後も機会を作って参加しようと思います。
(50 代、男性)

事務局より

昨年に引き続き、株式会社資生堂研究推進部の皆さんには、非常に熱心に現場作業に取り組んで頂き、受入団体の方も「森が一気に明るくなった」と好評でした。一般のレンジャーズと異なり、部署単位での参加ですので、初めての森林作業をされる方がいても、すぐにチームワークで役割分担がなされていく様子は、企業の方ならではの長場で、こうした取り組みを広げていきたいと考えています。

◆ 株式会社協振技建様・特定非営利活動法人 NICE 様

2013 年 11 月 2 日に鶴ヶ島市高倉地区で、株式会社協振技建様と特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）様と一緒に、アヤメの移植などのミッションを実施しました。



東京都文京区が本社で、測量・設計等を専門とされている株式会社協振技建様との協働プログラム。創立 50 周年を記念して、全社員参加型の社会貢献プログラムを実施される事になりました。年間を通じたプログラムについて NICE 日本国際ワークキャンプセンターさんがコーディネートを担当し、「都心に近い活動地」の問合せをきっかけにレンジャーズとの協働がスタート、鶴ヶ島市役所 農業交流センターさんに協力を依頼する形で今回のミッションが実現しました。

場所は地域の伝統行事や農村景観が今も残る、埼玉県鶴ヶ島市高倉地区。ここを流れる「飯盛川（いいもりがわ）」は、レンジャーズの母体である認定 NPO 法人自然環境復元協会でも関わって、地元の市民団体、行政（鶴ヶ島市）との協働で、直線化された河川を近自然工法で再生し、生物が沢山棲めて自然豊かな景観の回復を実施しているところです。この秋から再生工事が開始されるのを前に、これまで地元の方が育ててきたアヤメを、移植するための作業が必要になりました。しかしその作業はかなりの重労働。そんな時に、企業の方の社会貢献のご相談があり、今回のミッションが実現しました。



農業交流センターの方が丁寧にやり方を教えてくださいました！



力をあわせて、アヤメの掘り起こしを行います。



根ははっていて、ちょっと掘り起こすのが大変です・・・。



お昼ごはんは、地域の食材を使ったお弁当です！



サツマイモ掘り。この後、焼き芋にいただきました。



地域の伝統文化にも触れることができました。

この活動は、44 名の方にご参加いただきました。今回はたくさんの人が来て下さったおかげで、地元の方が一番頭を悩ませていたアヤメの移植が、予定よりも広い範囲まで行いう事ができ、地元の方も喜んで下さいました。この活動が出来なければ、これだけ沢山のアヤメを移植することは出来ず、そのまま土に埋もれてダメになってしまうところでした。今回皆さんが移植して下さいましたアヤメもしっかり根を張り、来年からまたキレイな花を咲かせてくれることでしょう。

◆ 専門学校東京テクニカルカレッジ様

2013 年度 トーキョーレンジャーズでの仕事場カリキュラムの実施と効果

専門学校東京テクニカルカレッジ

環境テクノロジー科教員 井上綾子氏

初めに、本校学生に活躍の場を与え、丁寧に指導して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科は、環境の①調査技術 ②浄化技術 ③保全技術の3つを柱に授業展開を行い、総合的に「環境」を学んだ技術者の育成を目指している学科です。本学科では教員が行う通常の講義や実習に加えて、学生が学外で活動する「仕事場カリキュラム」を実施しています。これは就職を目指す学生の社会経験不足を補い、①コミュニケーション能力の向上、②環境保全に関する知識・技術の習得 を目的に始めた取組です。トーキョーレンジャーズでの活動は、この仕事場カリキュラムの一環として参加させていただいており、今年度は15名（1年生9名、2年生6名）の学生が全10回にわたり活動してきました。今回は例年の活動に加え、「報告書の提出」や「若い人材が継続してボランティアに参加してくれるようになるにはどうすれば良いか」等、新しい課題を与えていただきました。これらの課題は、学生が自分の経験を振り返り、活動の意義をより深く考えることにつながったと感じております。

活動終了後にアンケートを実施しましたので、以下、学生の感想を紹介させていただきます。

- 学校を卒業し、別の会社へ就職しても、この活動を継続していきたいです。
- 世代の異なる方々と交流する機会も多かったため、コミュニケーション能力の向上に繋げることができました。
- 思っていたよりも楽しめて取り組みました。活動内容は前もって詳しく知りたかったです。
- 普段経験できない事ばかり体験できたので、とても勉強になりました。いろいろな所にお世話になり、本当に感謝しています。ありがとうございました。
- 少し遠慮がちになってしまったのが心残りでした。
- 運動不足の解消にもなり、とてもいい経験になりました。
- アルバイトやボランティアをしたことのない人にとってはいい経験だと思います。
- 普段できないような体験が出来て良かったです。
- 強い責任感が身に付き、良い経験になりました。
- 今回の仕事場カリキュラムに参加できて良かったです。
- 巣箱の設置など、普段経験出来ない事を学ばせていただけたので、とても良かったです。

最後に、人は人の中で育つと言いますが、トーキョーレンジャーズでは年代も専門性も異なる方々と協力した活動ができ、人間性を高める効果があると考えております。また、野外作業の大変さを身を持って経験したことで、それをやり遂げた達成感や喜びも感じる事ができたはずで、今後も自然環境復元協会様と連携を続け、豊かな人間性を備えた環境技術者の育成を目指していきたいと思っております。

◆こんな時どうする？救急の Q!ファーストエイド講習会

場 所： 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

日 時：2013 年 7 月 6 日（土）

内 容：救急法の考え方を学び、CPR・AED を体験する

講 師：小山丈二氏（メディック・ファーストエイド®ベーシック・小児・AED のインストラクター）

参加者数：14 名

【講義内容】

自然を相手にしているからこそ学んで置きたい救急の話。怪我をした時どうする？から、怪我をしないようなリスク管理を学びました。

まずは、リスクの発見トレーニングの実践です。ペアを作り、一人が目隠しをして、もう一人が声を誘導して外を歩きました。次に、救急法の考え方や必要性を学びました。「一般市民の役割は、救急隊が到着するまでに要する短い時間のつなぎ役に過ぎません。誰にでもできる、もしくは自分ができる簡単な手当てをすればよいのです。」というお話を聞きました。そして、その後、

CPR、AED 体験を体験しました。最近、駅、学校、デパートなど、いたるところに設置されている AED。いざという時の為に、救命の一連の流れを実践できて、とても有意義でした。最後に、具体的なファーストエイドを学ぶということで、止血の方法の実践も行いました。



【受講後の参加者の感想】

- ・ 実施内容が大変意味深く、参考になりました。ダイビングの資格取得時及び介護資格取得時に救命講習の経験がありましたが、今回の内容はとても勉強になりました。
- ・ 話に聞いていた AED を実際に体験できてとても良かったです。いきなり使用する場面に行きあたっていたら、オロオロしていたと思います。
- ・ CPR、AED は誰でも使えること、また、実践的な使い方を学べたことは非常に有意義だった。また、ファーストエイドと治療の違いや心構えもよく理解できた。
- ・ AED の使いか茶 CPR の方法で知らないことがたくさんあったので、大変勉強になりました。今日の講習を受けて、自分も何かおきたときには積極的に行動しようという勇気をいただけた気がします。ありがとうございました。



◆生物多様性を確保する里山づくり講習（基礎編）

場 所：横浜市保土ヶ谷区『カーリットの森』

日 時：2014年3月9日（日）

内 容：様々な生物の貴重なゆりかごとなる里山について、どのように整備をすれば良いのか学ぶ

講 師：中村雅雄氏（“カーリットの森”を守る市民の会の代表）

参加者数：13名

【講義内容】

カーリットの森は、日本カーリット社の跡地に多く残されている森林の通称であり、横浜駅から4kmと至近距離にありながら東京ドーム13個分の広さを持っています。この土地の特性から生物多様性を高めながら、どのように森を管理していくのか、また今まで行ってきた活動内容や現在生息する動物や生物の紹介をして頂きました。

カーリットの森に生息するニホンバチと他のハチとの捕食関係から里山管理の大切さ、代表の方々の想いを聞きました。活動を始めてから、タカやフクロウが姿を見せるようになり、夏には周りよりも2～3℃温度が低くなることが観測されているそうです。荒れ果てた森からあるべき里山の姿へと変化を感じられているというお話を聞くことができました。



【受講後の参加者の感想】

- ・ 里山における自然の管理の大切さを学んだ。天然林との保護の違いから、里山は定期的に間伐する必要があることを知った。
- ・ 地域特性による違いで団体によって、里山の管理違いがあることを知った。幅広い知識を身につけたいのではいろんな団体のボランティアに参加してみたいと思う。
- ・ ボランティアに参加してこの事が好きになった。家からとても近いので、レンジャーズ以外でもこのボランティアに参加しようと思う。たまに散歩に来ようと思う。
- ・ 最近生物多様性の必要性が言われるようになったが、身近なところで学んだり関わったりするのがいいと思った。
- ・ ボランティアしながら、講義を設けてくれるのは良かった。なかなか学べないことなので良い経験になった。
- ・ レンジャーズの活動は参加しやすくいいと思う。いろんな団体の活動に参加できるし、1人でも参加しやすい雰囲気がある。



知識の習得だけでなく、
管理の実践も行いました。

◆レンジャーズ隊員 宇田川 祐美恵 様

私は子供の頃から生き物や自然が好きで、近年は神奈川県の森林インストラクターとして水源林整備系のボランティア活動にも参加しているのですが、より身近な自然に関わる活動を探していた時にレンジャーズプロジェクトに出会いました。

いわゆる自然環境保全系の市民活動は星の数ほどあると思いますが、様子も分からずいきなり飛び込むのはなかなか敷居が高く、腰が引けていたので、好きな時に好きな活動に気軽に一回だけ参加出来るというレンジャーズのコンセプトを読んで「これだ!」とピンとききました。公園やビオトープ、田んぼ、畑、竹林の整備や植物館のイベントなど、様々なフィールドや組織の多彩な活動を体験出来る点はとても魅力的ですし、場所や服装、道具、心構えなど分からないことだらけの初心者でも、まずは全てレンジャーズがお膳立てをしてくれるので取り掛かりやすいと思います。それに、どの活動団体の方も、皆さんとても丁寧に熱心に作業理由などを一から教えてくださり、毎回、作業の達成感のもとより、沢山の驚きや発見、知識、学びをお土産に持って帰る喜びがあります。お試し気分で参加してみて、内容や通いやすさなどが自分に合っている、その組織の正規の会員として活動を始めたフィールドもあります。参加者は初対面の方が多いのですが、朝集合した時にはなんとなくこちなくとも、作業が始まるとすっかり和気藹々とした雰囲気になっているところも、自然が育む共感力の偉大さを感じます。

あと、レンジャーズプロジェクトのWEBサイトやミッションは、ネーミングや言葉使いがキャッチーで、コンセプトを明るく、楽しく、わかりやすく伝えていて素晴らしいと思います。登録するといきなり隊員呼ばわりでメールが届いたり、ツボにはまりまくります。サイトを開くたび、出動要請メールが届くたびになんとなく楽しい予感がする・・・そんなところも大切だと思います。



◆レンジャーズ隊員 山下 理恵 様

レンジャーズの活動を始めてもうすぐ1年になります。以前より環境保全に興味があり、ある植林のサイトを通じてレンジャーズを知りました。活動内容は、除草作業から畑仕事、森のお手入れなど様々で、植林だけを考えていた私にとっては新鮮な活動ばかりで、こんな事もできるのかとウキウキしたのを覚えています。自由参加であること、年会費などが発生しないこともあり、気軽にスタートすることができました。また、個人で参加されている方がほとんどで、毎回顔ぶれが変わり、年齢も職業も、参加する目的も違ういろいろな方の話を聞いては刺激を受けています。



毎回参加して思うのは、受け入れてくださる方たちが義務ではなく楽しんで活動をされているということです。皆さん明るく元気で、手伝いに行った私がパワーをいただいています。そして、自然の中で鳥や虫や風の音を聞きながらの作業はあっという間です。あっという間すぎて物足りないこともあります。お昼に終了するころには、すっかりきれいになった現場はとても清々しく、早朝からの作業ということもあり、健康的で贅沢な時間を過ごすことができます。畑や田んぼの活動時には、採れた野菜やお米でもてなしていただくこともあり、密かな楽しみの一つとなっています。レンジャーズの活動に参加して、今ではわたしたちの生活も環境も変わり、ただ生活するだけでは自然を守ることができないことを知りました。今ある自然をこれからもずっと守っていくために、この活動を通じてみなさんの知恵を学び、自分自身も楽しみながら未来に繋げていきたいと思っています。

◆ 恵泉女学園大学人間社会学部人間環境学科 准教授 松村正治氏

里山保全におけるレンジャーズの意義について（社会学的観点からの意義）

◆NORA のこれまでの取り組み

NORA は、2000 年に団体を設立して以降、都市近郊に残る里山（樹林地・農地、公園・緑地など）と都市に住む人びとをつなぐ活動を継続してきた。たとえば、里山保全ボランティアを養成し活動団体を組織化したり、里山に関する各種講座の企画・運営を実施したりしてきた。今日、横浜市内・神奈川県内では、市民のボランティア活動によって身近な環境を保全する動きが活発であるが、NORA はそうした動きを推進してきた団体の 1 つと言えよう。

しかし近年、多くの市民団体では世代交代が進まず、会員の固定化と高齢化が課題となっている。一方、環境保全ボランティア活動への参加を希望している若い世代は少なくない。問題は、そうした若者が活動に参加しやすい場と機会が提供されていないことにある。適当な仕組みをつくることで、人びとと里山をつなぐことが求められている。

◆レンジャーズをはじめてみての感想（特に恩田の谷戸）

スタートして半年未満だが、20～30 代を中心に毎回 10 人程度が集まっている。参加者の満足度は高く、受入団体からも活動が進む、あるいは活気づくと好評で、一定の成果を上げている。恩田の谷戸の場合、このプロジェクトを通して参加したレンジャーズの中から入会者が現れたり、近隣に住んでいたけれども知らなかった学生がリピーターとなったりと、地域の活動団体を力づけることにも役立てたように思われる。毎回、谷戸で採れた農産物を生かした昼食が提供され、一人ひとりが自分のことを話す機会があり、豊かなコミュニケーション環境ができている。こうした点も、都市近郊の環境ボランティア活動では大切なことであろう。

◆課題と今後の展望

本事業では、人と人、人と自然をつなぐコーディネーターが慢性的に不足していることや、活動の成果を評価する方法が確立していないことなどの課題がある。また、今のところ、助成金に頼って事業を実施していて自立性に乏しいため、今後は多様なアクターを巻き込んでいくことも必要となっている。

まずは、コーディネーターを養成する講座・研修を開催すべきだろう。また、レンジャーズ対象のスキルアップ講座・研修等を開催することで、身近な地域の環境を守る若者の養成をはかり、多世代の市民によって里山を保全していく体制の構築をめざしたい。

◆レンジャーズ事業の社会的な価値

誰もが環境ボランティア活動に参加しやすい仕組みをつくることで、環境保全を实践する人びとを増やし、若返りも図れると期待できる。これにより、停滞気味の里山保全の現場に活気が戻り、活動が進むことで生物多様性を豊かにすることができれば、大きな社会的な価値を生むことになる。

◆ 長期インターンシップ生 金子雅佑さん

「振り返り」

認定 NPO 法人自然環境復元協会
長期インターンシップ生 金子 雅佑

長期インターン生としてお世話になり始め一年半が経ちましたが、2013 年度を振り返ると、一年間本当にいろいろなことがあったと実感します。横浜を中心に新たなフィールドも開拓できましたし、何よりも登録隊員数が 1,100 人を突破したことでいつもたくさんの隊員さんにミッションに参加していただき、感謝してもしつくせないほどです。私と親しくしてくださる隊員さんも多くなり、いつでも楽しくミッションリーダーの業務に携わることができました。加えて、企業の CSR 活動の企画・実行にも携わらせていただき、会社法が専門の私にとっては大変勉強になった一年でした。

ただ、以前と明らかに異なるのは「私自身が業務に慣れてきた」という点です。スタッフになりたての頃は事務作業やミッション当日のリーダー業務もたどたどしいところがあり、隊員さんを上手くサポートすることができず、若干パニックになる時もありましたが、現在ではその様な事態に陥ることはなくなり、隊員さんとコミュニケーションをとりながら落ち着いて対応できるようになりました。事務作業においてもコツをつかんできたため、ミッションタイトルを考える等の作業時間も短くなり、一日の内に多くの業務をこなせるようになりました。ただ最近は「慣れ」からくるちょっとしたミスもするようになってしまったので、今後は初心を忘れずに注意して業務をこなしていきたいと思います。

私が隊員からミッションリーダーになる際、仲の良い隊員さんから「何か面白いことを企画してよ」と言われました。2013 年は私自身が業務をおぼえ、それをこなしていくことで精一杯なところがあり、せいぜいミッションのタイトルを面白くすることぐらいしかできなかったもので、2014 年度は隊員さんからのリクエストを募りつつ、面白い企画を立案・実行し、少しでも隊員さんに喜んでいただけたらと思います。そして今後も多くの隊員さんの自然保護活動を、楽しく有意義なものにするお手伝いをしていきたいと思っています。

また、最近新たなスタッフも加わりましたので、その方たちと一緒にまた一年レンジャーズプロジェクトのさらなる発展を支えていければと思います。2014 年も良い意味で忙しい一年になることを期待しております。

事務局より

金子君には、現場活動でのボランティアリーダーと事務局内での作業で活躍していただきました。活動当日における参加者の方とのコミュニケーションはもちろん大切ですが、それだけでなく、参加者募集の段階でのコミュニケーションも非常に重要です。ホームページやメールでの参加者募集の案内を「参加したい！」と思ってもらえるように、活動の面白さや意義を伝える能力が求められます。金子君はこの力を身につけている素晴らしい人材です。今後もレンジャーズプロジェクトを一緒に作り上げていきましょう！

◆ 長期インターンシップ生 和田昂紘さん

レンジャーズに関わってみて

認定 NPO 法人自然環境復元協会
長期インターンシップ生 和田 昂紘

私は、大学3年の時に、短期インターンシップとして、自然環境復元協会でお世話になりました。そして大学卒業後、今度は、長期インターンシップとして、様々な仕事に関わらせて頂いております。

今回はレンジャーズの業務として、①レンジャーズのリーダー業務、②東京テクニカルカレッジの専門学生の引率に分けて、述べていきたいと思います。

①私は、レンジャーズのリーダーを通じて、人と人をつなぐことの大切さ学びました。リーダー業務は、充実した保全活動・レンジャーズというコミュニティが関わって下さる全ての方にとって居心地のいい空間を創出するため、重要な役目となります。これを実現するためには、参加者の方とコミュニケーションをとり、かつ全体の安全を確保するため、常に周りを気にしていなければなりません。これらを両立するのに、初めは戸惑いました。しかし、経験を積むうちに、肩の力が抜け、落ち着いて周りが見えるになると、参加者の方同士で、コミュニケーションをとりながら、作業を進めていることに気づきました。そこで、リーダーの業務は、全てをリーダーがこなすのではなく、参加者同士をつなぐ、初めのきっかけを作ることが重要だと気付きました。今後、「参加者と団体」、そして「参加者同士」を繋ぎ、参加者と団体の方の両方にとって、意義のある活動・居心地の良い空間を創出できるリーダーになれるよう全力で取り組んでいきます。

②「東京テクニカルカレッジの専門学生の引率」では、ボランティアとしてではなく、専門学生の職場体験として、環境保全団体の活動に参加します。ここでは、目指すべき自然環境の実現に向けて、計画を立て、作業を進めていく環境保全団体側の視点に立って作業を行うので、レンジャーズの活動とは少し異なります。よって、私自身が指示を出し、まとめるのではなく、学生の主体性を引き出し、団体の方とコミュニケーションをとりながら行動してもらうことになります。そのために、ファシリテーション力や多少なりとも教育者としての力量が求められ、非常に良い経験をする事が出来ました。学生さんたちにとって、学びのある職場体験になっていれば幸いです。

二つの業務とも、環境保全団体へ行き、作業をするという大まかな業務内容は、同じなのですが、必要な能力や対応の仕等、異なる立場で保全活動に関わることが出来ました。インターンシップは、どれも私にとっての成長の糧になる体験ばかりです。まだまだ未熟な部分が多いため、少しでも多くのことを学び、地に足をつけながら、一歩ずつ前進していきたいです。



事務局より

和田君は、現場活動でのボランティアリーダーやコーディネーターとして活躍しています。レンジャーズのリーダーは、一般参加者の方は勿論のこと、現地活動団体の方、専門学校教職員の方といった多様な立場の方と円滑にコミュニケーションをし、調整する力が求められます。和田君はリーダーになってまだ半年ですが、調整力を発揮してレンジャーズを支えています。

◆ 短期インターンシップ生 玉川大学農学部の学生の皆さん

レンジャーズプロジェクトでは、毎年度、玉川大学農学部の学生の皆さんをインターン生として受け入れています。玉川大学農学部では、インターンシップの授業があり、その一環として学生さんが研修に参加します。

2013年9月1日 「鎌倉で昔ながらの農作業 in 鎌倉中央公園」の感想

- 参加者の皆さんは初めて会う人達でしたが一緒に農作業を行ってたくさん話せましたし、リーダーの佐々木さんや谷戸の会の方々が丁寧に指導をしてくれたのでとても楽しく作業が出来ました。いい交流の場にもなったと思うし、畑づくりの勉強にもなりました。はやく育った大根食べたいな…。 （高橋さん）
- 当日は9月とは思えないほどの暑さの中みんな汗をだらだらと流しながら作業をしました。しかし、ミッションを終えてから参加者のみなさんが「楽しかった」「いい運動になった」「リフレッシュされた」と言っていたのを聞いて、こう思える活動は素敵だなと思いました。休日を有効的に過ごすためにもってこいの活動だと思います。（杉本さん）
- 今回、初めてレンジャーズプロジェクトに参加して、自然豊かな環境の中で農作業をすることができ、とても良かったです。鍬を使って畑を耕したのは初めての経験でした。活動場所の雰囲気がよく、説明も分かりやすかったので作業もスムーズに進み、次回も是非参加したいと思いました。差し入れて頂いた梅ジュースはさっぱりしていてとてもおいしかったです。（宮本さん）



2014年3月15日 「湧き水ブシャー！ in 桜ヶ丘緑地」の感想

- 桜ヶ丘緑地は、とてもホタルが多く生息している場所で、5月下旬~6月上旬にかけてよく見られるそうです。実際に水田には、ホタルの幼虫の餌となるカワニナが沢山いました。また、湧き水周辺には、とても多くのホタルがいるそうです。しかし、二段水路周辺には、来ないようなので、「ここにもホタルが来るといいなあ」と作業をしたボランティアの方がおっしゃっていました。だからこそ、桜ヶ丘緑地全体がホタルにとって、よい生息場所になればと思いました。作業自体も、この土地訪れる多くの方のためにと思って作業していると、環境や地域のために貢献できていると感じ、とてもやりがいを感じました。（新井さん）
- 作業後には焼き芋と焼きマシュマロをごちそうになりました。参加者の方や現地活動団の方々とのお話を通じて、環境や生き物について沢山の知識を得ることができました。活動を通しての達成感だけでなく、コミュニケーションも楽しめます！また天周辺には商店街やお店があり、横浜も近いので、ミッション完了後にはお買い物も楽しめて一石二鳥だと思いました。今回参加できて良かったです。（佐藤さん）

事務局より

研修日程は1週間から2週間と短期ではありますが、レンジャーズプロジェクト秘伝のマーケティング理論を学んでもらい、ホームページに掲載するレポートの作成体験をしてもらっています。この濃い～研修で学んだことを学生生活、さらには社会人になってからも是非活かしてくださいね！

◆広報・講演活動レポート

夏の体験ボランティアキャンペーン 2013

主 催：東京ボランティア・市民活動センター

日 時：2013年6月26日（水）

内 容：ボランティア希望者へのレンジャーズプロジェクトのPR

毎年行われている東京ボランティアセンター主催の『夏のボランティア体験キャンペーン』に受入団体として説明会参加した。申込多数とのことで、急ぎょ大きな会場になった。説明会に来ていた人の層は幅広く、高校生から社会人まで多くの方に説明を聞いていただけた。

ボランティア参加希望者と話して感じたことは、「変わった団体だったらどうしようか」、「自分はついていけるだろうか」、「気軽な気持ちで参加してもいいのか」、「自分には何ができるのか、役に立たないかもしれない」、「人づきあいは得意じゃない」といった、人それぞれ別々の不安や悩みを抱えていることであった。人それぞれが抱えるボランティア参加に対する不安や心配は、ボランティア説明会などに参加いただき、丁寧に説明をすることが、その不安の解消へとつながると感じた。ボランティア参加希望者との直接的なコミュニケーションの重要性を感じた。

今回の人材募集イベントを行った結果、3名のボランティア参加希望者から連絡をいただいた。7/28に行った柏の宮公園でのミッションに参加していただくことができた。

**「NPOサポートいろは塾」第5回**

主 催：NPO 法人新現役ネット

日 時：2013年9月4日（水）18:00～20:00

内 容：シニア向けの連続講座「NPO いろは塾」で、シニアの社会参画に関するファシリテーション

講 師：伊藤博隆（レンジャーズ事務局）

レンジャーズプロジェクトでこれまで培った「ボランティア初心者の活動参加」のノウハウを活かし、ボランティア初心者であるシニア層のグループワークのファシリテーションを行った。グループワークは、「どんなボランティアをやりたいか?」、「なんでボランティアをやらないのか? その対策は?」をテーマに行った。

ファシリテーションをする中で、会社をリタイアした男性が地域のコミュニティに参加するには、レンジャーズのような活動が良いと確信した。

ボランティア参加に関しての理解を深めてもらうだけでなく、今回をきっかけに、実際にレンジャーズプロジェクトの複数のフィールドに何度も参加してくださる方も出てきて、実際のボランティア参加につながる講演ができた。



◆メディア掲載・出演情報

インターネットラジオ番組「川瀬良子のワンダフルガーデン」に出演

メディア名：インターネットラジオ sora×niwa FM GINZA

日 時：2013 年 6 月 19 日（水）17:00～18:30

内 容：自然環境復元協会とレンジャーズプロジェクトの紹介

出演者：伊藤博隆（レンジャーズ事務局）



レンジャーズプロジェクトの紹介はもちろんのこと、今後の目標として、「自然や環境に関心ある方が増えて来ていると思うので、より多くの人々がもっと気軽に地域の自然に触れて、気持ちが豊かになるようになっていけるようにレンジャーズでも色々なフィールドをバンバン増やしていきたい！」と宣言！また、6月22日の新木場駅前チャリティーハーブガーデンプロジェクトのミッションの告知も行った。詳しくは、番組 HP の http://www.soraniwajapan.com/blog/ginza/kawase_130619.php で。



地球環境基金便り No.35 がレンジャーズの活動を紹介

メディア名：地球環境基金便り No.35（環境再生保全機構 発行）

発行日：2013 年 9 月 1 日

内 容：高齢ボランティアグループをサポートする活動として紹介

特集「環境保全活動に取り組むシニア世代」の中で、活動レポート「活動のカタチは様々、シニア世代の取組」で、「シニアボランティアの良きパートナー」と高齢ボランティアグループをサポートする活動として紹介された。2013 年 5 月 24 日のサンシティ内緑地の活動でのインタビューが掲載された。

サンシティライフ No.125 に「団地っ子が見たサンシティの森」を寄稿

メディア名：サンシティライフ No.125（サンシティ管理組合 発行）

発行日：2013 年 10 月 1 日

内 容：サンシティでのレンジャーズの活動を通じて感じたことなど

執筆者：和田昴紘（インターン生）



インターン生でボランティアリーダーである和田さんが、サンシティでのレンジャーズ活動を通じて感じたことをレポートした。以下、原稿からの引用です。

…「活動の活性化には『よそ者・バカ者・若者』を上手く使うとよい」と言われています。私たちレンジャーズはまさにその「よそ者・バカ者・若者」です。人手のいる作業はもとより、サンシティや SGV（サンシティグリーンボランティア）の魅力を伝えること、また、住民の方との媒体役など、部外者の「よそ者・バカ者・若者」だからこそ出来ることもあると思います。…

趣味の園芸「緑のチカラ 人のチカラ」でインタビュー記事が掲載

メディア名：趣味の園芸 2014 年 2 月号（NHK 出版 発行）

発行日：2014 年 1 月 21 日

内 容：レンジャーズプロジェクトの活動紹介、スタッフインタビュー

対応者：伊藤博隆（レンジャーズ事務局）



1967 年から続く、NHK-E テレの長寿番組「趣味の園芸」のテキストとして、NHK 出版により発売されている「趣味の園芸 2 月号」に、レンジャーズプロジェクト事務局スタッフのインタビューが掲載された。インタビューは、「落ち葉を踏みしめて？ in 柏の宮公園 2013.12.1」の際に実施され、レンジャーズプロジェクトの話題を中心に、長時間に渡り話をさせていただいた。3 ページの誌面にレンジャーズのミッションや、レンジャーズに取り組む思いなどが掲載された。以下、記事からの引用です。

…「初心者のでいいんです。みんなと自然の中で無心に作業することの気持ちよさを味わってほしいんです。環境を守るうえで何が問題なのか、十の言葉を聞くより一回でも体験すれば分かってもらえると思います」…（中略）…次の担い手を求める地域活動と若い人を結びつけるのが、この活動の一番のねらいと伊藤さんは力を込める。…



BAILA「イモ子レポート初めてのボランティア」がレンジャーズの活動を紹介

メディア名：BAILA 2014 年 3 月号（集英社 発行）

発行日：2014 年 2 月 12 日

内 容：レンジャーズプロジェクトの活動レポート

対応者：高瀬唯（レンジャーズ事務局）

働く女性のおしゃれを磨くファッション誌「BAILA 3 月号」（集英社）の人気連載ページ「イモ子レポート はじめてのボランティア」にて レンジャーズプロジェクトが紹介された。取材の方が、「わしわし竹刈り in 八王子・宇津木台緑地 2013.12.22」に参加され、当日の様子やレンジャーズプロジェクトについて 1 ページの誌面にマンガ入りで分かり易く、簡潔にまとめて頂いた。環境保全ボランティアについて、「なんで始めたの？」「ボランティアは何をするの？」「誰のためになるの？」「どうすれば参加できるの？」と Q&A も充実。以下、記事からの引用です。

…自然を守るためには人が手入れすることも大切なんです！…（中略）…環境を守るのに竹を刈ってしまっているの！？と思ったけれど、住宅地に近い里山など、自然のといっても一度人が手を入れたところは継続的に手入れしないと荒れてしまうため、間引きをすることも大事なのだとか。（体験してみて…イモ子日記）竹の伐採ってもしかして重労働！？と思ったけれど、コツをつかめばすぐにできるように。竹林は人が手入れをすることでバランスのいい状態を保つことができる。自然と人の共存はこうして成り立っているんだと実感しました。…

◆ 広報ツールの紹介

以前制作した「緑のボランティアスタートガイド」が好評であったのと、トーキョーレンジャーズからレンジャーズプロジェクトに展開したため、改めてレンジャーズプロジェクトに特化したスタートガイドを作成。1 ページ目にはレンジャーズプロジェクトのコンセプト・ヒストリーを掲載したり、最終ページに緑のボランティアの社会的意義をビジュアルで解説。



制作：アートディレクション・不破稔、編集・稲葉沙織、
 フォトグラファー・藤城貴則、人物撮影協力・高田淳也
 協力：サンシティグリーンボランティアの会、柏の宮公園自然の会、夢の島公園

昨年度から開設しているレンジャーズプロジェクトの web サイト。「ホームページがしっかりしていたので、レンジャーズに参加することを決めました！」という隊員の声をよく聞きます。レンジャーズが活動する上で、絶対に欠かせない広報ツールです。今年度もちょこちょこバージョンアップ。



たとえば、今年度からはトップページのミッション完了レポートのリストで、写真のサムネイルが表示されるようになりました。一目で活動の様子がわかるようになりました。また、パブリシティのリストも表示されるようになり、メディア掲載情報も確認できます。

隊員登録のフォームもセキュリティが強化され、より安心して隊員登録を行えるようになりました。

Web サイト制作：株式会社 Imaginarium

◆ 緑地保全活動団体への定着に関する一般参加者の意識について

千葉大学大学院 園芸学研究科

博士後期課程 高瀬唯

1. はじめに

現在、日本各地で、市民による緑地の保全・創出のための活動が盛んに行われているが、活動参加者不足と参加者の高齢化という課題が指摘されている^{1), 2)}。この課題を解決するために、認定 NPO 法人自然環境復元協会がレンジャーズプロジェクトという若手ボランティア人材派遣活動を実施している。保全活動団体の高齢化が進み、新規メンバーが集まらない一方で、ボランティアとして環境保全活動に参加したいという高いニーズがあることに着目し、2010 年に開始された³⁾。2013 年 2 月時点で、登録者数は 1183 名である。レンジャーズプロジェクト登録者のうち約 55%は 20 代以下であり、このような若手ボランティア人材派遣が普及すれば、若手の人材不足の解決が行われている。しかし、活動団体への若者の定着はあまり促進されていないのが現状である。ここで、一点疑問があがる。そもそも、若者は地域の環境保全活動に定着する意思があるのだろうか。また、活動参加者不足や参加者の高齢化という課題を認識しているのだろうか。そこで、本調査では、レンジャーズプロジェクト参加者が地域の活動団体に定着を希望しているのかを明らかにすることを目的とした。また、活動参加者不足や参加者の高齢化という課題を認識しているのかを明らかにすることも目的とした。

2. 調査方法

本調査は、レンジャーズプロジェクトの現場活動に実際に参加している登録者を対象にアンケート調査を行った。2013 年 9 月から 2014 年 1 月までの間に行われた 14 回の現場活動で調査を実施した。現場活動が終わったあと、その参加者にアンケートを配布した。回答者数は 123 名となった。

調査項目は、(1) 属性(性別、年齢)、(2) 緑のボランティアへの参加経験の有無、(3) 希望する参加スタイル、(4) 特定の活動団体への入会意思の有無、(5) 参加者不足や高齢化という課題に対する認識の有無、(6) 特定の活動団体への入会に関する不安の大きく 6 つで構成した。

緑のボランティアの定義は、「緑のボランティアとは、公園や樹林、農地、河川などで行う保全活動です。具体的な内容は、草刈り、植林、樹木の剪定、清掃活動、農作業体験、自然教室、動植物の調査、外来生物の除去などです」とした。本定義は、アンケート用紙に掲載した。

●特定の活動団体への入会に関する不安

項目名	項目の詳細
1 活動費用	費用がかかる、費用が気になる
2 活動場所	活動場所が遠い、交通の便が悪そう
3 活動環境	汚れそう、虫にさされそう、暑い、ケガしそう
4 活動興味	積極的に参加したくなるような魅力的な活動が少ない
5 活動意義	活動内容が本当に自然を保全できるのか疑問である
6 体力不足	体力がもつ心配だ
7 人間関係	活動中 1 人ぼっちになりそう、他の人とうまく会話できるか心配だ
8 活動時間	時間が取れない、日程があわなくて続けられなさそう
9 活動時間	時間が取れない、日程があわなくて続けられなさそう
10 知識不足	知識が無くて自分に出来るか心配だ
11 自然体験	自然で過ごした経験が少なく参加のハードルが高い
12 情報入手	情報の調べ方がわからない、知りたい情報が見つからない

●希望する参加スタイル

比較名	項目名	項目の詳細
活動時間	丸一日	丸一日活動したい
	2～3時間	2～3時間くらいの活動がよい
作業内容	がっつり	伐採など、がっつりとした作業がしたい
	軽作業	ゴミ拾いや草むしりなど、手軽な作業がしたい
活動場所	同じ場所	同じ活動場所での活動したい
	様々な場所	様々な活動場所での活動したい
参加頻度	定期参加	定期的に参加を続けたい
	単発参加	単発的に活動へ参加したい
活動立場	団体運営	活動団体の運営、リーダーをやりたい
	一般参加	一般参加者として活動に参加し続けたい

3. 結果

(1) 回答者の属性

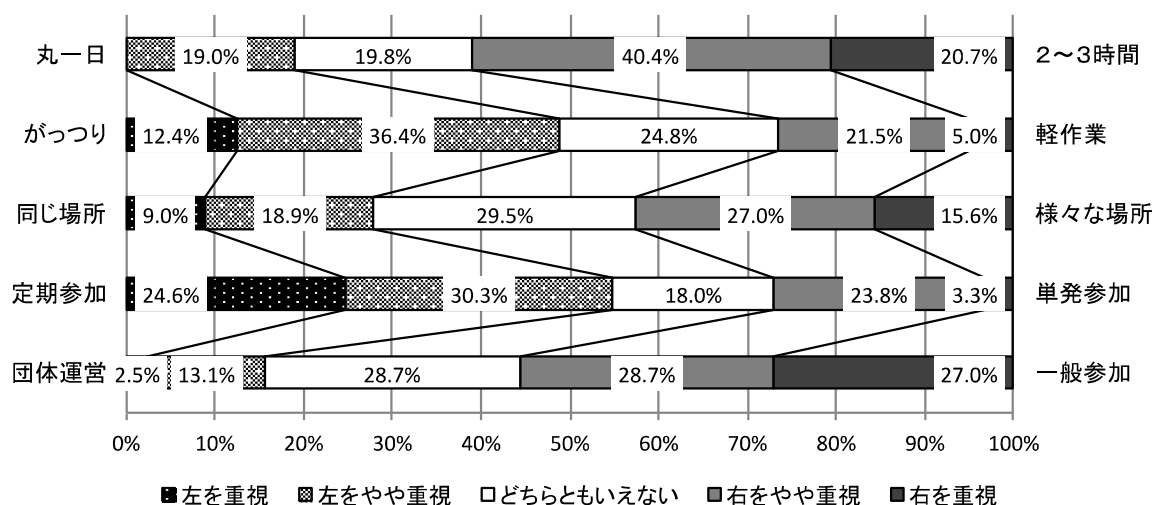
有効回答のうち、男性が73名（64.6%）で、女性が40名（35.4%）であった。年齢は、10代以下が5名（4.4%）、20代が36名（31.9%）、30代が26名（23.0%）、40代が30名（26.5%）、50代が8名（7.0%）、60代以上が8名（7.0%）であった。

（2）緑のボランティアへの参加経験の有無

有効回答のうち、84名（68.9%）が緑のボランティアへの参加経験があった。39名（31.1%）は緑のボランティアへの参加経験がなかった。参加経験のある84名のうち、55名（65.5%）がレンジャーズプロジェクトのみ以前参加したことがあり、12名（14.2%）がレンジャーズプロジェクト以外の活動に参加したことがあった。どちらも参加したことがあるのは、17名（20.2%）であった。以前レンジャーズプロジェクトに参加したことがある人のこれまでの参加回数は、1～3回という人が約6割を占めていた。

（3）希望する参加スタイル

活動時間に関して、「丸一日活動したい」の方を23名（19.0%）が重視し、「2～3時間くらいの活動がよい」の方を74名（61.3%）が重視した。作業内容に関して、「伐採など、がっつりとした作業がしたい」の方を59名（48.4%）が重視し、「ゴミ拾いや草むしりなど、手軽な作業がしたい」の方を32名（26.5%）が重視した。活動場所に関して、「同じ活動場所で活動したい」の方を34名（27.9%）が重視し、「様々な活動場所で活動したい」の方を52名（42.6%）が重視した。参加頻度に関して、「定期的に参加を続けたい」の方を67名（54.9%）が重視し、「単発的に活動へ参加したい」の方を33名（27.1%）が重視した。活動立場に関して、「活動団体の運営、リーダーをやりたい」の方を19名（15.6%）が重視し、「一般参加者として活動に参加し続けたい」の方を68名（55.7%）が重視した。



（4）特定の活動団体への入会意思の有無

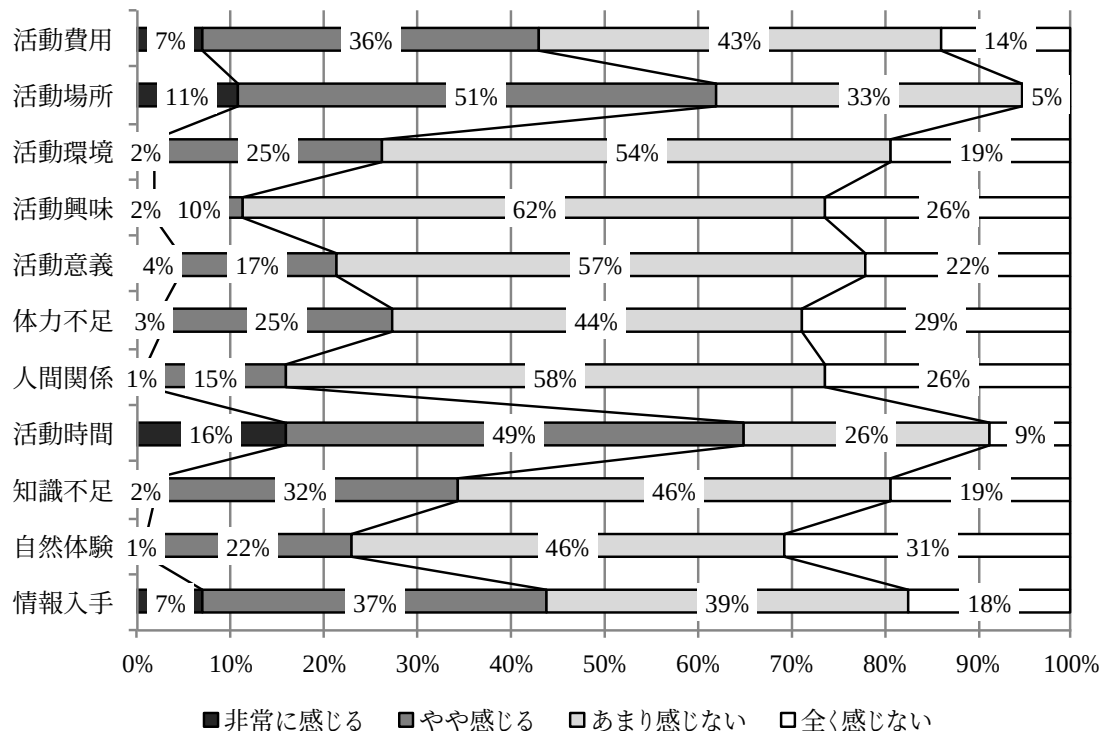
「今後、緑のボランティアに関する特定の活動団体に入会したいと思いますか。」と質問したところ、58名（52.3%）が「はい」と回答した。44名（39.6%）が「いいえ」と回答した。9名（8.1%）は既に入会していた。

（5）参加者不足や高齢化という課題に対する認識の有無

「緑のボランティアに関する活動団体で、人手不足やメンバーの高齢化に悩んでいる団体が多いのが現状です。あなたは、このことを知っていましたか。」と質問した。有効回答のうち、レンジャーズプロジェクトに参加する前から知っていた人は26名（22.8%）であった。レンジャーズプロジェクトに参加して初めて知った人は43名（37.7%）であった。このアンケートで初めて知った人は44名（38.6%）であった。その他として、「農家そのものが後継者が少なかったちという問題は知っている」（1名、1%）という回答が得られた。

(6) 特定の活動団体への入会に関する不安

特定の活動団体への入会に関する不安に関して、「活動場所が通そう、交通の便が悪そう（活動場所）」（60 名、62%）、「時間がとれなさそう、日程があわなくて続けられなさそう（活動時間）」（74 名、65%）は 6 割以上の回答者が不安に感じていることが明らかになった。



4. まとめ

本調査では、レンジャーズプロジェクト参加者が地域の活動団体に定着を希望しているのかを明らかにすることを目的とした。また、活動参加者不足や参加者の高齢化という課題を認識しているのかを明らかにすることも目的とした。

調査の結果から、特定の活動団体に入会したいと考えている人は約 5 割で、入会したいと考えていない人は約 4 割であった。レンジャーズプロジェクト参加者で、定着を希望する人もいれば、定着を希望しない人も同じくらいいると言える。しかし、希望する参加スタイルとして、同じ活動場所で活動するよりも様々な活動場所で活動することが重視されており、活動団体への定着のための緩衝材としての役割だけでなく、様々な場所で活動を楽しむためのシステムとしての役割も求められていると考えられた。定着してもらうためには、「活動場所が通そう、交通の便が悪そう」、「時間がとれなさそう、日程があわなくて続けられなさそう」の 2 点を解決することが必要とされている。

活動参加者不足や参加者の高齢化という課題に関しては、レンジャーズプロジェクトに参加する前から知っている人は 2 割と少数であり、レンジャーズをきっかけに知る人が 4 割であった。レンジャーズプロジェクトは、環境保全活動の参加者不足という課題の啓発効果があると言える。しかし、本アンケートをきっかけに知った人も同じく 4 割いて、この課題を認識してもらうための工夫の余地がある。

引用文献

- 1) 栗田和弥・植竹薫 (1999)：関東地方における市民による環境 NPO の自然環境保全活動に関する研究：ランドスケープ研究 62(4), 400-404
- 2) 中島敏博・古谷勝則 (2004)：千葉県北総地域の残存緑地に対して里山活動参加者が期待する里山イメージに関する研究：ランドスケープ研究 67(5), 653-658
- 3) 認定 NPO 法人自然環境復元協会(2012)：認定 NPO 法人自然環境復元協会レンジャーズプロジェクト 2011 年度成果報告書

◆ サンシティ内緑地「緑の都市賞」受賞について

レンジャーズプロジェクトが始動するきっかけとなった東京都板橋区にあるサンシティ内緑地。何と嬉しいことに、公益財団法人都市緑化機構主催「第33回緑の都市賞」で内閣総理大臣賞を受賞されました！

緑の都市賞とは、「明日の緑豊かな都市づくり・街づくりを目指して、樹木や花などの『みどり』を用いた環境の改善、景観の向上、緑のリサイクル等に取り組み、緑化や緑の保全の実績に良好な効果をあげている市民団体、民間企業、公共団体等の団体を顕彰し、都市の緑化推進、緑の保全による快適で地球に優しい生活環境の創出を推進する」ことを目的に実施されているそうです。

「人と森の若返り」が評価され、受賞されたとのこと。サンシティグリーンボランティアの会の皆様のお手伝い役として、レンジャーズプロジェクトではサンシティ内緑地で活動を行ってきました。これまで、のべ250人以上の隊員の方にご参加いただいています。レンジャーズプロジェクトは、特に「人の若返り」への貢献について、サンシティの皆様から大きく評価していただいております。そこで、レンジャーズプロジェクトも、この「人と森の若返り」で一役担ったということで、サンシティ管理組合様から2013年12月8日に感謝状と記念品をいただきました。

「この森を守れなくなるから、木を全部切って芝生にしようと思っているんだ・・・」の一言から始まったレンジャーズプロジェクト。初めての活動は隊員3人とスタッフ2人だけでしたが、地道に活動を続けたことで、地域の環境活動団体の皆様に対してこれほど大きな貢献をすることができました。

これからもレンジャーズプロジェクトでは、身近な自然を守る活動を行っている皆様のお手伝いに励んでいきます。



感謝状

認定 NPO 法人自然環境復元協会様

あなたは第三十三回緑の都市賞内閣総理大臣賞受賞において緑の若返り活動「人の若返り」の推進に多大な貢献をされました

ここにあなたの功労を称え記念品を添えて表彰いたします

平成二十五年十二月八日

サンシティ管理組合

◆ 自然環境復元協会レンジャーズプロジェクト 担当理事 立川 周二

「レンジャーズの活動と自然環境保全」

ここでは、レンジャーズの活動が、自然環境の保全につながるという話をします。「里山」という言葉が、日常に現れてきたのは、それほど古いことではありません。とくに、2010年に名古屋で開かれた、国際会議 COP10 以降、次第に注目されるようになりました。COP10 は、地球上の生物多様性をまもるために、世界の人類がどうすべきか、話し合われる会議です。そこで日本は、「里山方式」を提唱しました。日本の自然環境における、里山とよばれている環境に、豊富な生物がすんでいるという、事実に基づいています。これは、歴史的にみたとき、近世までの人の営みは、自然を破壊したのではなく、よい影響を与え良好な環境がつくられた事例を指しています。これまでは、「自然環境」は放置しておくのがベストで、人が働きかけるのは自然破壊であると考えていました。しかし、環境をまもることは、放置することばかりでなく、人手を入れることも必要であることを主張したのです。里山では必要に応じて、草を刈り、枝を落とし、木を切り倒すこともありました、しかし、資源の消費を適度に抑制し、巧みに自然の循環を応用し、持続的に自然と共生してきました。その結果、日本は世界に誇る、生物多様性のホットスポットになったのです。

現代では多くの人々は、大都会に住んでいます。一極集中が進み、全人口の 1/4 が首都圏に住んでいます。都市の中で緑が見られるのは、公園と河川敷など、僅かな空間のみです。コンクリートに囲まれた生活に、都市公園の果たす役割は重要性を増しています。都市景観の形成、気象の緩和、交歓の場、安全な遊び場、災害時の避難所など、たくさんの機能を担っています。従って、都市公園の利用者は増え、ますます必要性は高まっています。もう一つ大切なのは、生物たちがくらす場としての意義です。つまり都市に残された自然的な部分は、公園にのみ存在することを認識すべきです。この公園の管理には、造園業など専門職ばかりでなく、補助的ではありますが、公園ボランティアの果たす役割が、大きな力となっています。

自然環境復元協会の主な目的は、自然環境の保全と再生です。これを実行する一環として、レンジャーズプロジェクトが発足しました。別項で報告しているように、多くの協力者が得られて、受け入れ先の評価もますますです。レンジャーズの活動は、単なる力仕事のお手伝いではなく、人と自然の共生を実践する実学でもあります。例えば除草の作業を取り上げると、草刈機を使用して、ある時期に画一的で一斉に、雑草を刈り取ればよいではありません。公園のような、人の出入りの激しい場所では、どうしても強い外来種がはびこり、弱い在来種は消えてしまいます。外来種を放置すると、大変な勢いで増え、その種ばかりの草地になってしまいます。在来種を積極的に選んで残し、外来種だけを除草することが必要です。そのためには、一本一本の草を見て、確認しながら抜き取ることもあります。機械の作業から見れば、非能率的で根気のいる作業です。この様な作業には、ある程度の手を必要として、ボランティアの活動が最も適しています。できれば多くの人々が参加して、人海戦術とするのが望ましいのです。公園ボランティアが、入念に手入れをしている所では、在来種が美しい花を咲かせ、チョウや野鳥が数多く飛びまわっています。都会人のオアシスとして公園本来の姿であり、潤いと憩いの場所を提供しています。しかし、ボランティアの仲間にも高齢化と少数化がすすみ、活動を全うできない所が増えてきました。この様な隙間を埋めるのが、若いレンジャーズの存在です。花壇のカラフルな花ばかりでなく、都内でも本来の自然的要素を残し、生物多様性を持続させることが大切です。私達は、都会とは言え生態系サービスが受けられるような理想的な環境づくりが、レンジャーズの目標であると考えています。あなたの力を必要としています。さらなるご協力をお願い致します。

「三年間のリーダー経験で嬉しく感じている出来事」

私がレンジャーズプロジェクトのリーダー業に関わらせて頂いてから3年目となりました。いつもレンジャーズに参加してくださっている隊員の皆さま、ありがとうございます。

今回の成果報告書作成にあたり、私はこれまでレンジャーズのリーダー活動に携わってきた中で、特に嬉しかった出来事についてお話してみようと思います。

嬉しく感じている出来事とは私が関わってきた間にも、リピーターとして参加してくれる隊員が現れてきている事です。またレンジャーズの活動で現地の方達と顔馴染みになった隊員の中には直接、現地団体の会員になられるケースも現れ始めています。

先日のレンジャーズ活動で杉並区の柏の宮公園へ伺った時にも「佐々木さん、こんにちは。私はレンジャーズの活動に参加したのがきっかけでこちらの公園と団体の活動を知りました。最近こちらの団体にも入会しました。」と私に声を掛けてきて下さった女性の方とお会いしました。

その他に別の活動場所でも現地の方から、「この前レンジャーズで私たちの会を知った方が、今度はお友達と一緒に作業のお手伝いに来てくれました。」とお話を頂く機会もありました。

レンジャーズプロジェクトの出来た背景には身近な場所にある自然を守りたい、地域で活動している人たちの人手不足問題を解消したい、と言うものがあります。なので、レンジャーズに参加したのがきっかけで地域の方たちと一緒に活動する人が現れ始めているこの流れを私は本当に嬉しい出来事だと思っています。

先ほども少し触れましたが、私がレンジャーズプロジェクトの出来た背景の一つに地域で活動している人たちの人手不足問題を解消したい、というものがあります。私がレンジャーズプロジェクトに関わらせて頂いてから今年で三年目となり、毎月の活動では本当にたくさんの方たちとお会いしています。最近では参加してくれた隊員の方たちから「自然を守るボランティアに興味があって、レンジャーズに参加しました。実際の活動に参加してみて楽しかったです。また次回も参加したいです。」と言う声を聴く機会がよくあります。



レンジャーズプロジェクトはボランティアに「参加したい人」とボランティアを「求めている人たち」を結ぶ懸け橋のような場だと私は思っています。これからもレンジャーズが緑のボランティアを通じて人と人の結びつきを大切にしながら、地域の人たちと一緒に笑いながら活動できる場であり続けてほしいと考えています。



◆ 自然環境復元協会レンジャーズプロジェクト コーディネーター 伊藤博隆

「レンジャーズプロジェクトへの思い」

私の生まれ育った町は、横浜でも緑が多く、夏休みといえば毎日のように近所の山へ出かけ、虫捕りをしていました。そんな子供にとって夢のような場所が、ある日突然、木が伐採されて造成が始まり、開発されるという光景を見ました。子供ながらに「これは何とかしなければ」と思ったのが、私が緑や環境に関心を持つようになった原点です。また地元の里山保全の活動に関わるようになって、10年以上経ちました。こうした地域の活動団体は、全国に1万程度あるのではとされていますが、「環境オタク」が好きでやっているように思われる向きもあります。しかし地域の環境の保全は極めて重要な事で、私の地元でいえば、ホトケドジョウやゲンジボタルは、人がそこに住む遥か以前から暮らしていましたが、人間の行為によって棲みかを追われ、絶滅の危機に瀕しています。開発から守られた地域でも、雑木林は放置されて荒れているところが多いのが現状です。



里山として使われる森には、人が手を入れる必要がありますが、それはとても楽しいものです。普段使わない筋肉を使い、自然と対峙することは、人間が自然の中で暮らすために培ってきた五感や感性を引き出してくれる感じがします。私は動植物の種類には詳しくはありませんが、里山の中で体を動かすことは、知識など関係なく、単純に実に気持ちの良いものです。四季折々に全く違った表情を見せてくれるのも魅力です。「こんな気持ちの良いことを、自分達だけで味わうのはもったいない。これは誰でも味わえる気持ちの良さだから、もっと気軽に雑木林の活動に参加できる人が増えればいいのに」と思っていました。また、「青年海外協力隊というのがあるのに、なんで国内協力隊がないのか？」とも。そんな中、レンジャーズプロジェクトと出会いました。自分のフィールドのボランティアを募集する団体は沢山ありますが、地域の草の根活動団体に人を派遣するような活動は、あまり見かけなかったので、「これは良い」と思いました。また自分自身も経験があるのですが、「何か環境の事をやりたくても、何をどうすれば良いのか分からない」とか「自分とは異なる年齢の人ばかりの地域の団体に入るのは怖い」と思う人は多いと思います。レンジャーズではそうした障壁を取り除く事に重点をおき、活動しています。

事務局の井尻さん、河口さんよりお声掛け頂き、レンジャーズにスタッフとして関わって2年が経ちました。運営の大変さはあるものの、活動の方向性の正しさを、やればやるほど実感します。自分なりにレンジャーズの意味を考えると、未来に向けた壮大な挑戦のように思います。緑のボランティア活動は、比較的年齢が高い層が支えていますので、担い手をどんどん投入していかないと、活動を継続していく事ができません。ですのでレンジャーズの当面の対象は、若い世代に地域の緑の保全活動に参加してもらうこと。当然学校や仕事や家庭があり、すぐに現場に入れなくても、若いうちからこうした活動の大切さ、楽しさを理解してもらい、人生のどこかのタイミングで、時間が出来た時には是非とも参加して欲しいと思っています。また、その中からリーダー的存在の方が生まれてくれれば最高です。生物多様性の重要さが叫ばれていますが、何から手を付けて良いか分からない、という人も多くいると思います。キャンペーンなど机の上の普及啓発よりも、真実は常に現場にあります。どこかのフィールドでお会いできる事を楽しみにしています。

最後になりましたが、隊員の皆さん、地域の団体の方々、助成を頂いている地球環境基金様、自然環境復元協会の役職員など、実に多くの方がレンジャーズの活動に共感し、様々な形のご支援を頂いております。この場をお借りして、皆様に感謝申し上げます。

◆ あとがき

今回は、レンジャーズプロジェクト3冊目の成果報告書です。普段のレンジャーズプロジェクトは勿論ですが、今回の成果報告書作成でも多くの皆様のお力をお借りし、完成することができました。この場をお借りして、みなさまにお礼を申し上げます。

「2013年度フィールド紹介」に関しましては、各地域の活動団体の皆様にご協力いただきました。トーキョーレンジャーズでは、宇津木台森遊会様、サンシティグリーンボランティアの会様、柏の宮公園自然の会様、隅田公園さくらパートナーシップ様、夢の島熱帯植物館様。かまくらレンジャーズでは、NPO 法人山崎・谷戸の会様。埼玉レンジャーズでは、鶴ヶ島市農業交流センター様。よこはま里山レンジャーズでは、入船公園管理事務所様、恩田の谷戸ファンクラブ様、“カーリットの森”を守る市民の会様、NPO 法人よこはま里山研究所様、桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト様、瀬上さとやまもりの会様、な～に谷っ戸ん田の会様、NPO 法人新治里山「わ」を広げる会様。年度末でお忙しい中、ご協力くださり誠にありがとうございました。

「企業・学校との協働事例の紹介」に関しましては、NEC ソフト株式会社 CSR 推進部様、株式会社資生堂研究推進部様、NPO 法人 NICE 様、専門学校東京テクニカルカレッジ様にご協力いただきました。今後も、是非、一緒に協働させていただければ幸いです。ありがとうございました。

参加者の声では、実際にレンジャーズ隊員として活躍していただいている宇田川様、山下様にご寄稿いただきました。快く執筆を引きうけてくださり、ありがとうございました。これからも一緒にレンジャーズを盛り上げていただけると非常に嬉しいです。有識者の声では、恵泉女学園大学の松村先生にご寄稿いただきました。昨年度に引き続き、ありがとうございます。インターンシップ生の声では、長期インターンシップ生の金子君と和田君にご寄稿いただきました。普段のレンジャーズの活動も、縁の下から支えてくれているお二人です。いつもありがとうございます。

また、本成果報告書は地球環境基金様からいただいている助成金で作成しております。本助成を受けられたことで、トーキョーレンジャーズからレンジャーズプロジェクトへと広域化することができました。誠にありがとうございました。

普段のレンジャーズの活動には、上にあげさせていただきました皆様以外にも、多くの方からご協力をいただきました。クラウド型の CRM システムを提供して下さっている株式会社セールスフォース・ドットコム様、素敵な広報ツールを制作していただきました不破様、レンジャーズの顔である素晴らしい web サイトを制作していただきました株式会社 Imaginarium 様、レンジャーズリーダーの佐々木さんと丹野さん、遠く離れた地からレンジャーズを見守って下さっている井尻さん。ありがとうございます。

レンジャーズプロジェクトとなって、早3年。更なるレンジャーズの発展、環境保全ボランティアを頑張っている皆様とこれから環境保全ボランティアを始めようとしている皆様の幸せを願ってあとがきとさせていただきます。

2014.3.19 レンジャーズプロジェクト運営スタッフ

★運営スタッフ

伊藤 博隆
加藤 晶子
金子 雅佑
佐々木 堯之
高瀬 唯
丹野 優
和田昂紘

★自然環境復元協会 常勤スタッフ

河口 秀樹

★自然環境復元協会 理事

立川 周二
速水 洋志
春田 章博

★協力

井尻 裕子
市川 沙央理
林 沙耶香
玉川大学 インターン生の皆さん

平成 25 年度 レンジャーズプロジェクト 成果報告書

発行日：2014 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人自然環境復元協会

レンジャーズプロジェクト担当

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 1-3-13-301

TEL 03-5272-0254

FAX 03-5272-0278

E-Mail info@narec.or.jp, info@rangersproject.jp

URL <http://www.narec.or.jp>, <http://rangersproject.jp/>



本誌は地球環境基金の
助成で制作しています。



認定NPO法人

自然環境復元協会

Association for Nature Restoration and Conservation, Japan